

A golden snub-nosed monkey with long, flowing golden-yellow fur and a distinctive blue-grey face with a white patch around its mouth. It is sitting on a wooden fence, looking towards the camera. The background is a soft-focus green wall.

熊本市 動植物園 *Master PLAN*

For the 100th anniversary

A close-up view of a field of pink cosmos flowers with yellow centers, growing in a green field. The flowers are in various stages of bloom, and the background is filled with more flowers, creating a dense field of color.

Kumamoto City Zoological and Botanical Gardens

目 次

第1章 はじめに

1. 沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
2. 熊本地震からの復興・・・・・・・・・・・・・・・・・3
3. 課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4～7
 - (1)「熊本市動植物園再編整備計画」の見直し・・・・・・・・・5
 - (2)江津湖との一体性の確保・・・・・・・・・・・・・・・・・6
 - (3)施設の老朽化対策と魅力ある空間づくり・・・・・・・・・・・・・7
 - (4)収支状況の改善・・・・・・・・・・・・・・・・・7

第2章 熊本市動植物園のあるべき姿

4. 計画策定の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
5. 計画の位置づけ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
6. 計画期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
7. 成果指標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
8. マスタープランのコンセプトとテーマ・・・・・・・・・・・・・・・・・11～15
 - (1)コンセプト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
 - (2)テーマ1 「驚きと新たな発見！いきものミュージアム」・ 12
 - (3)テーマ2 「江津湖との調和。水辺動植物園を再び」・・・・13
 - (4)テーマ3 「優しさと魅力あふれる動植物園づくり」・・・・14
 - (5)テーマ4 「愛され続けるための運営体制の強化」・・・・15

第3章 計画実現に向けた取り組み

9. 驚きと新たな発見！いきものミュージアム・・・・・・・・・・・・・・・・・17～36
 - ①動植物の展示施設整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17～33
 - ②種の保存・調査研究の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
 - ③自然環境教育の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35～36
10. 江津湖との調和。水辺動植物園を再び・・・・・・・・・・・・・・・・・37～40
 - ①「(仮称) 水辺のインフォメーションセンター」の設置・・・・・・37
 - ②最高の景色を満喫できるビューポイントの設置・・・・・・・・・・・・・・38
 - ③江津湖畔を活かしたカフェを中心とした複合施設の導入・・・・・・39

④江津湖畔の立地を活かした動植物展示	40
1 1. 優しさと魅力あふれる動植物園づくり	41~49
①正面ゲートリニューアル	41
②来園者に優しい施設整備の推進	42~45
③来園者へ魅力あふれる空間の提供	46~48
④災害等の非常事態への対策	49
1 2. 愛され続けるための運営体制の強化	50~58
①歳入の確保	50~54
②更なる歳出削減	55~56
③ボランティア制度の見直し	57
④動物サポーター制度の見直し	58
1 3. 全体スケジュール	59
1 4. 進捗管理・見直し	60
【参考資料】	
1 5. 来園者アンケート調査	61~81

第1章 はじめに



1. 沿革

熊本市動植物園（以下、「動植物園」という。）は、昭和4年(1929年)に延長敷設された熊本市電第二期線の増収と新しい名所づくりを目的として、水前寺成趣園東側に同年7月26日に「熊本動物園」として開園しました。その後、施設の老朽化や、周囲が住宅地として発展し拡張が困難となったことから、昭和44年(1969年)7月1日に現在地の江津湖畔へ移転し、「熊本動物園(水辺動物園)」として開園しました。さらに平成3年(1991年)4月1日には、隣接地に整備した都市緑化植物園と一体化し、現在の「動植物園」となり、市民の憩いの場として多くの人々に親しまれています。

近年、野生動植物の保護や種の保存の場としての役割が社会的に注目されている中、動植物園では、楽しみながら学び、生命の尊さ、自然環境の大切さを理解できる環境教育・生涯教育の拠点として整備を進めています。

まず、平成17年(2005年)4月には、動物とふれあい、自然と人との関わりを学ぶ場とした、全国でもユニークな施設となる、動物ふれあい広場「タッチ愛ランド」を開設しました。

さらに、同年に策定した「熊本市動植物園再編整備計画」（以下、「旧計画」という。）に基づき、隣接する江津湖の水辺環境の特性を活かした生態観察の魅力向上を主眼とした再編整備に取り組み、平成20年(2008年)から平成25年(2013年)にかけて、「モンキーアイランド」、「サルたちの森」、「チンパンジー愛ランド」、「ペンギン・カピバラエリア」や「ニホンザルエリア」がリニューアルオープンしました。

このような中、平成28年(2016年)4月に最大震度7を記録した「平成28年熊本地震」が発生。動植物園は広範囲にわたり大きな被害を受け、臨時休園を余儀なくされましたが、平成29年(2017年)2月25日からは部分開園を行いながら復旧に取り組み、平成30年(2018年)12月22日には、約2年8ヶ月ぶりに全面開園することができました。



(園路の被災状況)



(友誼亭の倒壊)



(子ども列車駅舎の倒壊)

2. 熊本地震からの復興

平成 28 年(2016 年)4 月 14 日と 16 日に発生した熊本地震は、地盤の液状化や隆起・沈降などにより、動植物園にも甚大な被害をもたらしました。

給排水管が破損し、動物園施設のほぼ全域で断水。動物舎にも被害が及び、特に猛獣舎の損傷が激しく、そこで飼育していた猛獣（4 種 5 頭）を九州内 4 カ所の動物園に避難させました。そのほか遊具や友誼亭などの施設も被害を受け、地震による被害総額は約 7 億 8 千万円にものぼりました。

動植物園は、前震の翌日の平成 28 年(2016 年)4 月 15 日から臨時休園を余儀なくされましたが、その間、被災した子どもたちの心のケアの一助になればとの思いで、市内の保育園や幼稚園、小学校を対象に、ヤギやウサギ、モルモットなどの動物とふれあえる「ふれあい移動動物園」を 35 ヶ所で実施しました。

また、復旧にあたっては、何よりも早期の開園を目指すことを最優先とし、国の災害復旧補助金を最大限に活用しながら工事に取り組み、平成 29 年(2017 年)年 2 月 25 日には比較的被害の少なかった植物園や動物ふれあい広場などを、土日祝日のみの部分開園として再開することができました。その後も、復旧工事の完了に合わせ、4 度にわたり観覧エリアを拡げながら部分開園を続け、平成 30 年(2018 年)12 月 22 日の全面開園を迎えることができました。

熊本地震発生後から今日に至るまで、多くの方々にご来園頂き、たくさんの暖かなご支援やご声援を頂いたことで、動植物園が持つ「動植物の美しさや力強さに感動し、生命の尊さを実感できる場」としての意義や、多くの皆様に愛され、必要とされていることを改めて痛感したところです。

動植物園は、全面開園を迎え、ようやくスタート地点に立つことができました。今後は、熊本地震からの復興という次なるステージを目指して参ります。そのためにも、これまで応援いただいた多くの皆様のご期待に応えるため、また更に愛される動植物園へとなるため、開園 100 周年に向け、新たなスタートを踏み出します。



(猛兽舎の檻の破損)



(全面開園オープニング式典)



(全面開園当日の様子)

3. 課題

動植物園は、昭和4年(1929年)の開園以来、市民の憩いの場として、また、環境教育や生涯学習の場として多くの人々に親しまれています。

先ほど述べたように、旧計画では生態観察の魅力向上に取り組んできましたが、計画の途中で新たな問題が発生するなど、実現に向けて課題が多かったため、計画自体の見直しが必要となっていました。

一方で、豊かな自然環境を残す江津湖に隣接した立地ですが、動植物の展示や環境教育等において、江津湖の美しい景観を十分に活かせていない状況です。

さらには、利用者の多様なニーズへの対応や施設の老朽化など、早急に改善すべき様々な課題を抱えています。



(1)「熊本市動植物園再編整備計画」の見直し

平成 13 年(2001 年)3 月に熊本市動植物園再編整備検討委員会において、動植物園が目指す将来像として「生命の鼓動に感動し、豊かな感性を育む動植物園」が掲げられました。

これを実現するため、平成 13 年度(2001 年度)の「熊本市動植物園再編整備基本調査」により定めた、①動物園+植物園から、“生態園” へ、②地域の自然を考える “環境学習センター” へ、③江津湖の環境を最大限生かした豊かな“水辺公園” へ、の 3 つの基本目標に基づき、平成 17 年(2005 年)に旧計画を策定し、以下のとおり 5 期 10 年(総工費約 22 億円)の整備を実施することとしていました。

第 1 期 モンキーアイランド、サルたちの森(2006～2008 年度 3.3 億円)

第 2 期 チンパンジー愛ランド(2008～2010 年度 4.2 億円)

第 3 期 ペンギン、カピバラ、サル山エリア(2010～2012 年度 4.1 億円)

第 4 期 サバンナ水辺エリア(未着手・9.9 億円)

第 5 期 江津湖の自然エリア(未着手・1.5 億円)

このうち、第 3 期までの整備が完了し、平成 19 年度(2007 年度)に約 57 万人まで減少していた入園者数が、平成 20 年度(2008 年度)以降増加に転じ、平成 27 年度(2015 年度)には約 75 万人に達するなど、一定の効果を生まれました。

第 4 期の計画では、カバが生息する広大なサバンナ水辺エリアを整備する予定でしたが、約 10 億円と多額の整備費用を要することや、整備前に給排水問題の解決に取り組む必要があったことなど、実現に向けた課題が多かったため計画を中止しました。

また、旧計画は施設整備に特化した計画であり、動植物園に求められる重要な役割である、種の保存や教育への取り組み、動植物園が抱える施設の老朽化や厳しい収支状況などの課題を解決する方針が示されていなかったため、これらの課題への対応を含めた、今後の動植物園のあるべき姿を計画に取り入れることが必要と考えました。



(2) 江津湖との一体性の確保

動植物園は、昭和 44 年(1969 年)に水前寺から江津湖湖畔へ移転し、江津湖の特色を活かすために「水辺動物園」として開園しました。

そのようなことから、旧計画においても、「江津湖の環境を最大限に生かした豊かな『水辺公園』へ」を基本目標の一つとして整備を進めてきました。

また、近年では、江津湖の恵まれた自然環境を活かした各種観察会や、動植物園から江津湖を周遊できるよう、レンタサイクルなどにも取り組んできたところです。

しかしながら、現在地へ移転し 50 年が経過する中で、動植物園と水前寺江津湖公園との境は、繁茂した樹木により見通しを遮られ、視覚的に一体感を感じられず、また、豊かな自然環境をはじめとする様々な江津湖の魅力について、来園者への情報発信が十分ではなく回遊に繋がらないなど、江津湖との一体性を確保できない状況にあります。



(写真)

江津湖生き物ウォッチング



(写真)

熊本市動植物園南門

(3) 施設の老朽化対策と魅力ある空間づくり

動植物園は、現在地に移転した昭和 44 年(1969 年)から順次施設の整備を行い、現在、約 24.5ha の敷地に 84 棟の建築物（延床面積約 1.4ha）を有しています。

建築物は、開園当初に建てられたものもあり、一番古いものは築 50 年に達しています。また、9 つの遊戯施設や、建築物に付随する機械・電気設備も含め、今後多額の更新費用が見込まれるため、動植物園の健全な運営に資するためにも、施設の長寿命化を図り、経費の圧縮を図る必要があります。

さらには、ベビーカーや車いすの来園者にとっては、園路等に段差があるなどバリアフリー化されておらず、園内トイレの 7 割以上が和式であるなど、多くの施設が現代の生活様式に対応したものではないことから、長寿命化に加え、来園者の多様なニーズに対応する快適で魅力ある空間づくりも必要となっています。

(4) 収支状況の改善

動植物園の平成 27 年度(2015 年度)の決算状況を見ると、入園料収入等の歳入合計額が約 3.4 億円、維持管理経費や人件費等の歳出合計額が約 10.8 億円となり、約 7.4 億円を一般財源で負担しています。

これは、動植物園の役割が、レクリエーション施設としての側面から受益者より適正な負担を求める一方で、動植物に対する知識と愛護意識を深める学習拠点としての役割や、希少動植物の繁殖や保全の役割を担っていることなどから、平成 9 年(1997 年)10 月以降入園料を据置きしていたことも一因と考えられます。

しかしながら、利用者 1 人あたりの平均支出約 1,440 円に対し、1 人あたりの平均収入は約 453 円と支出の約 31%程度であり、園の健全な運営のためには早急に収支改善を図る必要があります。



第2章

熊本市動植物園の あるべき姿



4. 計画策定の目的

熊本地震による未曾有の被害から3年余。「一日も早い復旧を」との多くの皆様からのご支援・ご声援により、動植物園は全面開園することができました。今後は、熊本地震の経験や、第1章で述べた4つの課題を踏まえた、将来を見据えた中長期的な整備・運営方針を掲げていくことが必要です。

特に、今後の施設整備にあたっては、旧計画で掲げた「動物の生態観察の魅力向上の取り組み」などは踏襲しつつ、来園者にとって更に魅力ある空間を創出し、集客力の向上により、収支改善を図ることが重要です。

動植物園は、令和11年(2029年)に開園100周年を迎えます。

そこで、その節目の年を迎えるに当たり、市民や来園者の皆様に「愛され続ける」動植物園となるために、「動植物園のあるべき姿(コンセプト)」を示し、その実現に向け中長期的な施設整備と運営の方針を定めた「熊本市動植物園マスタープラン」(以下、「本計画」という。)を策定することとしました。

本計画で掲げた取り組みを実現することにより、江津湖畔の自然環境と調和のとれた快適で魅力的な動植物園を目指します。

5. 計画の位置づけ

本計画においては、第7次総合計画や関連計画との整合性を図ります。

さらに、動植物園の役割である、「種の保存」や「環境教育」の取り組みは、持続可能な開発目標(SDGs)のゴール14(海洋資源)・ゴール15(陸上資源)とも軌を一にしており、本計画に掲げる施策を通してSDGsの達成を目指します。



※ SDGs は、人間、地球および繁栄のための行動計画として、平成 27 (2015) 年 9 月の国連サミットで採択され、1 から 17 までの国際社会全体の目標と、169 のターゲットで構成されています。

経済・社会・環境に関する課題はそれぞれ関係し合っており、連携して解決していくことが重要であると示されています。あらゆる形態の貧困に終止符を打ち、不平等と闘い、気候変動に対処しながら、"誰も置き去りにしない"を基本理念に、2030 年の世界を見据えた新たな指針が SDGs です。

6. 計画期間

計画期間は令和 2 年度(2020 年度)から令和 11 年度(2029 年度)までの 10 年間とします。

※将来を見据えたエリア計画(P17)のみ、長期的(20～30 年後)な視点で定めることとします。

7. 成果指標

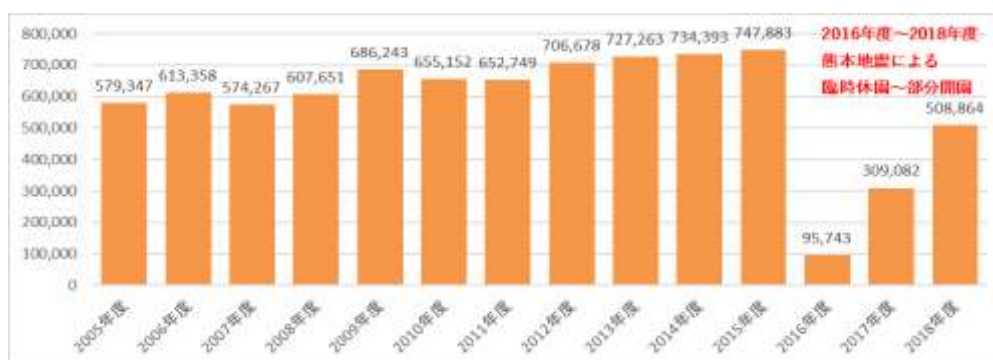
本計画においては、成果指標を設定し、計画期間中において適宜、成果指標の達成状況を踏まえた課題の検証を行うことで、本計画に掲げる個々の取り組みの進捗管理や計画自体の見直しにもつなげていきます。

【成果指標】開園 100 周年に向けて目指す来園者数

これまで、平成 17 年(2005 年)年に策定した旧計画に基づき、10 年間にわたり施設整備を実施し、年度平均 1.5%の来園者数の増加につなげました。

今後 10 年間ににおいても、熊本地震前の平成 27 年度(2015 年度)における来園者数 74 万 7 千人をベースに毎年度 1.5%の増加を継続していくことにより、令和 11 年度(2029 年度)までに来園者数 85 万人を目指します。

【これまでの来園者数】



【今後目指す来園者数】



8. マスタープランのコンセプトとテーマ

(1) コンセプト

「愛され続ける水辺の動植物園へ」

市民の憩いの場として愛され続けている江津湖の湖畔にあり、これまで応援いただいた多くの皆様に愛され続ける園を目指すことから、「愛され続ける水辺の動植物園へ」をコンセプトに掲げ、4つのテーマの実現に向けて取り組みます。

テーマ1 驚きと新たな発見！いきものミュージアム

動植物の生息地を再現し、命の大切さや生き物の置かれる厳しい自然環境の現状を伝えます。

テーマ2 江津湖との調和。水辺動植物園を再び

江津湖畔にある動植物園。江津湖畔のロケーションや豊かな自然環境を活かします。

テーマ3 優しさと魅力あふれる動植物園づくり

来園者に優しく、魅力ある空間を提供します。

テーマ4 愛され続けるための運営体制の強化

愛される動植物園であり続けるために、経営面の課題を改善し、動植物園の運営体制を強化します。



(2) **テーマ1** 「驚きと新たな発見！いきものミュージアム」

動植物園は、市民の憩いの場や観光施設としての役割を担う一方、「種の保存」、「教育・環境教育」、「調査・研究」といった役割も担っています。

現在は、約 120 種 700 頭の動物と約 730 種 88,000 点の植物を展示しており、これらの多様な動植物を通して、本や映像からは得ることのできない生き物の迫力や美しさを体感できる施設となっています。

今後、動植物本来の生息環境をより感じられるよう、動物と植物の一体的な展示に取り組み、私たちに身近な熊本や日本国内の自然をはじめ世界各地の自然環境や生態系、動植物と人との関わりを学ぶ場を提供することで、動植物の魅力を伝えていきます。

また、種の保存や調査・研究に関する活動を今まで以上に推進するとともに、その情報を広く発信し、動植物の生態や生き物の置かれる厳しい自然環境について知識を深める、学習の拠点「いきものミュージアム」を目指すために、3つの取り組みを進めていきます。

テーマ1の取り組み

① 動植物の展示施設整備

② 種の保存・調査研究の推進

③ 自然環境教育の推進



※「熊本市生物多様性戦略 ～いきもん つながる くまもと Cプラン～」
との関わりについて

熊本市は、平成 28 年(2016 年) 3 月に生物多様性の保全と持続可能な利用に向けた基本的かつ総合的な計画として「熊本市生物多様性戦略 ～いきもん つながる くまもと Cプラン～」を策定しました。その計画の中においても、動植物園の役割として、生物多様性に関する情報の収集・発信、生物や自然環境に関する学習機会の提供、希少生物の生息域外での保全の実施が挙げられており、同計画とも連携し取り組みを進めます。

(3) **テーマ2** 「江津湖との調和。水辺動植物園を再び」

動植物園では、江津湖の湧水を利用した動植物の展示や園内を流れる川辺での環境学習に取り組んできました。また、江津湖畔という立地を生かした取り組みとして、江津湖レンタサイクルや「江津湖の生き物ウォッチング」をはじめとする各種観察会も実施しています。更に、平成16年(2004年)には、江津湖畔の風景を眺望できる、砦（とりで）遊具やデッキを設置したところです。

しかしながら、動植物園と水前寺江津湖公園との一体性や回遊性の確保といった観点からは、未だ十分な活用が図られておらず、これらを向上させていくことが必要と考えています。

今後、より一層、水前寺江津湖公園との一体感や来園者の回遊性を高めていくために、「水辺動物園」としての一番の魅力である江津湖の清らかな湧水と、その湧水により育まれる豊かな自然環境を十分に活かしながら、4つの取り組みを進めていきます。

テーマ2の取り組み

- ① 「(仮称)水辺のインフォメーションセンター」の設置
- ② 最高の景色を満喫できるビューポイントの設置
- ③ 江津湖畔を活かしたカフェを中心とした施設の導入
- ④ 江津湖畔の立地を活かした動植物展示



(写真上：南門からの江津湖の眺望)



(写真右：下江津湖沿いの
サイクリングロードと湧水)

(4) **テーマ3** 「優しさと魅力あふれる動植物園づくり」

動植物園は、市民の憩いの場としての役割を担っていますが、園内の建物や設備の多くは老朽化し現代の生活様式に対応した快適で魅力ある空間とは言い難い状況になっています。

来園者アンケートでも、園路の段差解消、休憩スペースの整備、暑さ対策、案内表示板の設置、トイレの整備、遊戯施設の充実など、様々なご意見・ご要望を頂き、利用者の求める多様なニーズを把握することができました。

当園は、九州では珍しい起伏の少ない動植物園であることから、今後はその立地を生かし、ユニバーサルデザインに配慮した施設の改修等を実施し、家族連れはもちろん、高齢者や車椅子利用者等、誰もがストレス無く楽しめるよう、4つの取り組みを進めていきます。



テーマ3の取り組み

- ① 正面ゲートリニューアル
- ② 来園者に優しい施設整備の推進
- ③ 来園者へ魅力あふれる空間の提供
- ④ 災害等の非常事態への対策



(写真上) 鋼板が錆ついている屋外トイレ



(写真右) 凹凸のある園路

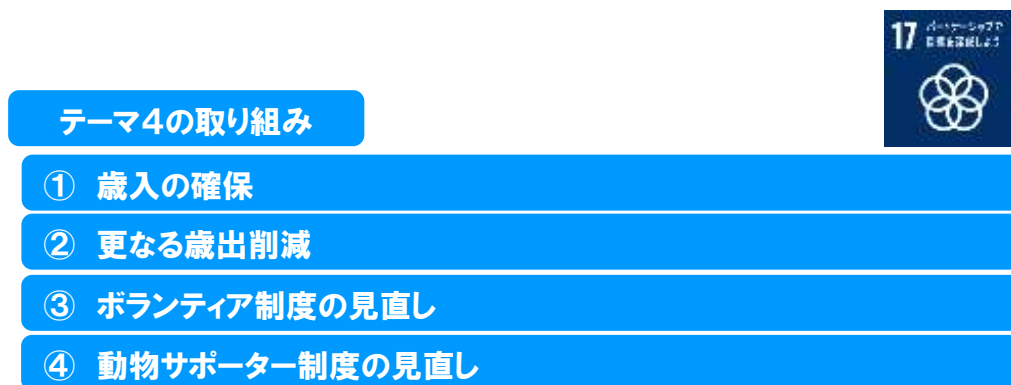
(5) テーマ4 「愛され続けるための運営体制の強化」

震災前の平成 27 年度(2015 年度)において、動植物園の管理経費に対する入園料や駐車場使用料、遊戯施設使用料などの自主財源収入は約 31%にとどまっており、約 7 億円の一般財源（税金）が投入されています。

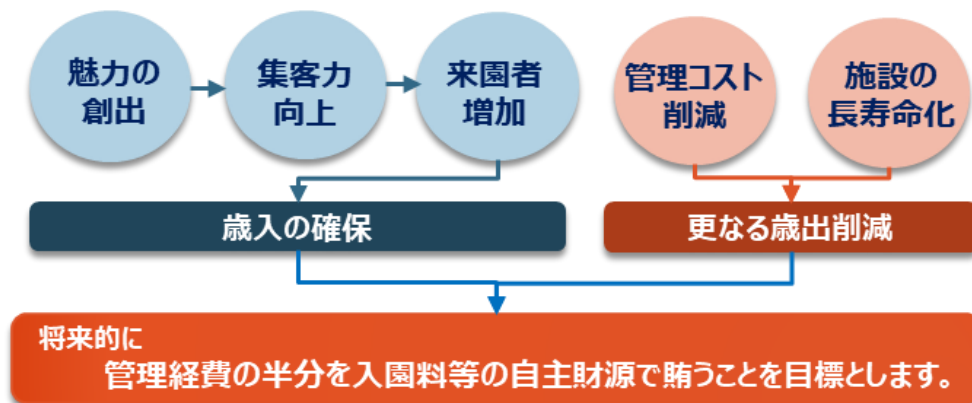
このような状況のもと、愛され続ける動植物園を目指し、魅力ある施設整備を進めながらの運営には、更に多額の経費が必要となります。

テーマ 1 からテーマ 3 に掲げた取り組みを着実に実施していくためにも、経常的な歳出削減の努力に加え、新たな魅力の創出に伴う入園者数の増加を目指すとともに、入園料や駐車場使用料などの受益者負担の見直し等の歳入確保策に取り組むことで、将来的に管理経費の約半分を自主財源で賄うことを目標に、収支改善を図る必要があります。

令和 11 年(2029 年)に開園 100 周年を迎え、さらに今後 20 年、30 年と愛され続ける動植物園として存続していくために、4 つの取り組みを進めていきます。



【収支改善のイメージ】



第3章

計画実現に向けた取り組み



9. 驚きと新たな発見！いきものミュージアム

① 動植物の展示施設整備

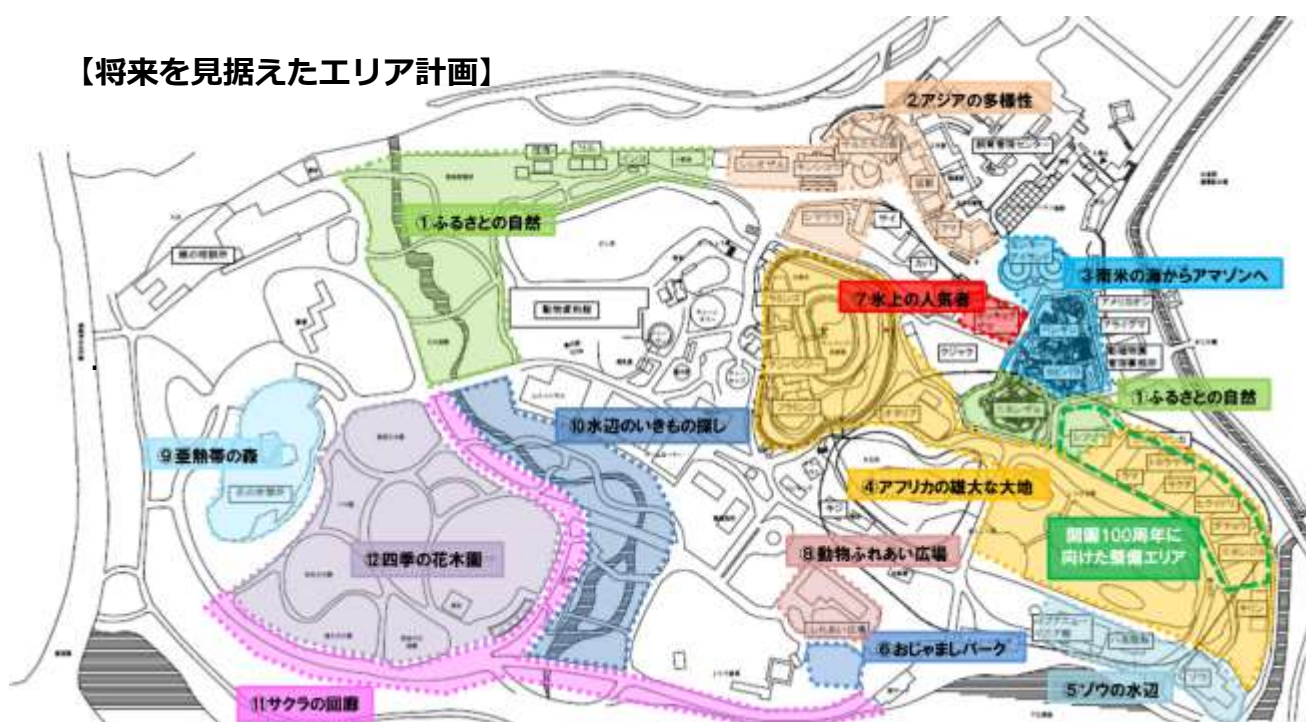
(ア) 将来を見据えたエリア計画

本計画では、まず、動植物の展示施設の整備方針を定めますが、策定にあたっては、特に以下の3点について留意しました。

- 旧計画で掲げた、「動物園施設と植物園施設との一体化」や「江津湖の環境の活用」といった考え方は、本計画においても踏襲しつつ、「生息地ごとの展示」を基本にエリアの再編を行うこと。
- 本計画の計画期間は10年間であるが、展示施設の整備にあたっては、ハード面に加え、展示する動植物の増減や海外も含む他園からの新たな個体導入の可能性を考慮する必要があるため、長期的視野でエリア計画を構築する必要があること。
- 令和3年度(2021年度)末に開催される「全国都市緑化くまもとフェア」のメイン会場の1つとして動植物園が予定されていることから、フェアの開催を見据えた短期的な整備が必要であること。

そこで、動植物の展示施設整備方針の策定にあたっては、まず、20～30年先の「将来を見据えたエリア計画」を、12の展示エリアに分けて策定し、フェアの開催を見据えた短期的な整備から順次行っていくこととします。

【将来を見据えたエリア計画】



(図1) 将来を見据えたエリア計画

【将来を見据えたエリア計画の解説】

① ふるさとの自然

展示テーマ：

- ・ 熊本県及び国内の動植物を通じ、身近な自然の大切さと生物多様性を学ぶことができる展示を行う
- ・ 水辺にある動植物園としての特徴を活かした展示を行う

主な施設

タヌキ・キツネ舎
ニホンキジ舎
ツル舎
猛禽舎
ニホンザル舎
日本庭園

主な動植物

ホンドギツネ、ニホンアナグマ、ニホンキジ、フクロウ、オシドリ、ツクシガモ、タンチョウ、ホンドタヌキ、ニホンイヌワシ、ゲンジボタル、カワニナ、淡水魚、エビ類、スイゼンジンノリ、ヒラモ、紅葉木、

展示計画

実施目標

【今後も継続】

- ・ 日本庭園小川でのゲンジボタルの飼育を行う
- ・ スイゼンジンノリの保護増殖を行う

【令和3年度（2021年度）まで】

- ・ タヌキ・キツネ舎、ツル舎、猛禽舎等を活用するとともに、日本庭園の森の中に、熊本県及び国内に生息する動物の展示を検討する
- ・ ニホンザル・ニホンジカの展示を通して、人と動物の関わりを学べるようにする
- ・ 江津湖に棲む淡水魚、カワニナ、エビ類、ヒラモの自然繁殖など小川の環境を整える
- ・ 日本庭園の樹木の整理（間引き、剪定）を行い、見通しを確保するとともに、四季を感じられる風景を作り出す

【令和11年度（2029年度）まで】

- ・ 日本の原風景である棚田をつくり、田植え・稲刈りなどの体験を行えるようにする

ホンドギツネ			ニホンアナグマ	
分布／日本（本州、九州、四国、熊本）			分布／日本（本州、四国、九州、小豆島、熊本）	
ニホンキジ			フクロウ	
分布／日本（熊本）			分布／日本（熊本）	
オシドリ			ツクシガモ	
分布／日本、東南アジア、サハラ、中国			分布／日本に冬鳥として飛来	

タンチョウ		ホンドタヌキ	
分布／北海道東部、中国東北部、シベリア東南部		分布/日本（本州、四国、九州、熊本）	
猛禽類 （ニホンイヌワシ導入検討）		ゲンジホタル	
分布/日本（北海道、本州）		分布/日本（本州、四国、九州、熊本）	
カワニナ		スイゼンジノリ	
分布/東アジア、日本		1872（明治5年）に、オランダの植物学者・スリンガーが、水前寺・江津湖において発見し、新属新種のラン藻として世界に紹介した淡水性ラン藻の一種。発生地のひとつである上江津湖の一部は、国の天然記念物に指定。絶滅危惧Ⅰ類。	
ヒラモ		紅葉木 （イロハモミジ）	
熊本県のみに自生する固有種。江津湖周辺などに分布し、柔軟な茎葉をもち長さ20～80cmになる。絶滅危惧Ⅱ類。		本州の関東以西に分布します。庭園樹、盆栽、材は建築材、器具材に利用されます。潮風、大気汚染に弱いです。	

②アジアの多様性

展示テーマ：

- ・ アジア地域の動物の地上から樹上など生活の多様性を展示する
- ・ ネコ科動物の生態や習性の多様性を比較展示する
- ・ 草原、水辺、密林、高地などアジア地域の多様な環境を学ぶことができる展示を行う

主な施設

クマ舎
猛獣舎
サルたちの森
キンシコウ舎
小獣舎
シマウマ舎

主な動植物

キンシコウ、シシオザル、シ
フゾウ、マレーグマ、
アムールトラ、ユキヒョウ、
ウンピョウ、
マレーバク（導入検討）

展示計画

実施目標

【令和3年度（2021年度）まで】

- ・ シフゾウを現シマウマ舎に展示を検討する
- ・ キンシコウの繁殖に向けた共同研究を検討する

【令和11年度（2029年度）まで】

- ・ サルたちの森は、霊長類以外の種の展示も行い、施設名称の変更を検討する
- ・ ライオンは「アフリカの雄大な大地」への移動を行う

【令和12年度（2030年度）以降】

- ・ クマ舎は、現行のクマの比較展示ではなく、マレーグマ、マレーバクの繁殖を可能とする施設に整備を検討する

キンシコウ		シシオザル	
分布/中国		分布/インド	
シフゾウ		マレーグマ	
分布/野生絶滅		分布/中国南部から東南アジアにかけての熱帯・亜熱帯地域の森林	
アムールトラ		ユキヒョウ	
分布/ロシア・中国の東部地域（アムール川・ウスリー川流域）		分布/中央アジアの山岳地帯	
ウンピョウ		マレーバク（導入検討）	
分布/インド北東部から東南アジア		分布/ミャンマー、マレー半島、スマトラ島などの森林地帯	

③南米の海からアマゾンへ

展示テーマ：

- ・ 海岸に生息するフンボルトペンギン、水辺に生息するカピバラ、樹上生活のクロコモザルなど環境に適応した動物の特性を学ぶことができる展示を行う

主な施設

モンキーアイランド
ペンギン舎
カピバラ舎
アメリカオシ舎
アライグマ舎

主な動植物

クロコモザル、ポリビアリスザル、フンボルトペンギン、カピバラ、コンゴウインコ、ベニイロフラミンゴ、チリーフラミンゴ

展示計画

実施目標

【令和3年度（2021年度）まで】

- ・ モンキーアイランドのリスザル側水モートで、南米産のフラミンゴ展示を検討する
- ・ アメリカオシ舎、アライグマ舎は改修を行い、フラミンゴ展示を検討する

クロコモザル		ポリビアリスザル	
分布/アマゾン川流域		分布/ポリビアやブラジル、ペルーなど	
フンボルトペンギン		カピバラ	
分布/南アメリカ大陸南部の太平洋		分布/南アメリカ	
アカコンゴウインコ ルリコンゴウインコ ベニコンゴウインコ		ベニイロフラミンゴ	
分布/メキシコから南米の熱帯森林やサバンナ		分布/西インド諸島、南アメリカ北部海岸	
チリーフラミンゴ			
分布/アルゼンチン、ウルグアイ、チリ、ブラジル南部、ペルー南部、ポリビア			

④アフリカの雄大な大地

展示テーマ：

- ・ 雄大なサバンナを連想させる広い展示場でキリンやシマウマなどの動物の混合展示を行う
- ・ 森（チンパンジー）、水辺（カバ）、サバンナ（混合展示）などのアフリカの多様な環境を学べる展示を行う
- ・ サバンナの雄大な大地の先に江津湖が望めるロケーションをつくる

主な施設

チンパンジー舎
草食獣舎
キリン舎
ゾウ舎
ライオン舎（新設）
マンドリル舎（新設）
ヤマアラシ舎（新設）
サバンナ混合展示（新設）

主な動植物

チンパンジー、ホオジロカンムリツル、クロサイ、カバ、シマウマ、エランド、ダチョウ、ホロホロチョウ、マンドリル、マサイキリン、アフリカゾウ、モモイロペリカン、ワオキツネザル、エリマキキツネザル、ライオン（移動予定）、ヤマアラシ

展示計画

実施目標

【令和3年度（2021年度）まで】

- ・ チンパンジーは現行施設で繁殖を目指す。
- ・ 隣接のフラミンゴは南米エリアに移動を検討する
- ・ シマウマを現草食獣エリアに移動を検討する
- ・ かも池の島でエリマキキツネザルの飼育を検討する

【令和11年度（2029年度）まで】

- ・ 老朽化が著しい草食獣舎は建て替えを行う。サバンナエリアは柵をできるだけ少なくし開放的な展示場でキリンやシマウマなどの混合展示を行う。また、サバンナに続く低木地エリアなどを計画する
- ・ ラマ・シロダマジカは他園等への搬出を検討する
- ・ 草食獣舎整備の際には、サバンナの混合展示を通して江津湖の眺望を確保するため、現在のパプアニューギニア館・は虫類舎は移設を検討する
- ・ パプアニューギニア館の鳥類・リクガメ等の爬虫類は亜熱帯の森へ移動を検討する

【令和12年度（2030年度）以降】

- ・ 現行サイ舎、カバ舎は老朽化しているため、将来整備を検討する

チンパンジー		ホオジロカンムリヅル	
分布／アフリカ大陸赤道付近の熱帯雨林		分布／アフリカ南部	
クロサイ		カバ	
分布／アフリカ大陸の南側のサバンナ		分布／アフリカ大陸	
シマウマ		エランド	
分布／アフリカ大陸のサバンナ		分布／アフリカ大陸のサバンナ	
ダチョウ		ホロホロチョウ	
分布／アフリカ大陸のサバンナ		分布／アフリカ大陸の開けた草原	
マンドリル		マサイキリン	
分布／アフリカ西部		分布／アフリカのサバンナ	
アフリカゾウ		モモイロペリカン	
分布／サハラ砂漠以南のアフリカ		分布／アフリカ北部、ヨーロッパ東南部、東南アジア	
ワオキツネザル		エリマキキツネザル	
分布／マダガスカル		分布／マダガスカル	
ライオン		アフリカタテガミヤマアラシ	
分布／アフリカ大陸		分布／アフリカ北部から中部にかけての岩場や森，草原	

⑤ゾウの水辺

展示テーマ

- ・ 絶滅の恐れのある希少動物の象徴でもあるゾウの飼育展示を将来継続的に可能とする施設をつくり、種の保存の重要性を伝える

主な施設

ゾウ舎

主な動植物

アフリカゾウ

展示計画

実施目標

【令和 12 年度（2030 年度）以降】

- ・ ゾウ飼育に関しては、現在飼育している個体が亡くなった後もゾウ導入が可能となる放飼場の整備を検討する

アフリカゾウ



分布／サハラ砂漠以南のアフリカ

⑥おじゃましパーク

展示テーマ

- ・ 来園者自らが、動物の飼育されているエリアに入り、より近くで動物を見ることができる展示を行う

主な施設

カンガルー舎（新設予定）

主な動植物

カンガルー

展示計画

実施目標

【令和 12 年度（2030 年度）以降】

- ・ カンガルー舎は、老朽化しているため、今後整備を検討する
- ・ 広々とした施設で、動物の放飼場に来園者が入っていける施設への整備を検討する
- ・ カンガルー以外の適性がある動物についても検討をする

カンガルー
（写真はアカカンガルー）



分布／オーストラリア

⑦氷上の人気者！

展示テーマ

- ・ 絶滅危惧種であるホッキョクグマの国内繁殖の取り組みを知り、環境保全の重要性を伝える

主な施設

ホッキョクグマ舎

主な動植物

ホッキョクグマ

展示計画

実施目標

【令和3年度（2021年度）まで】

- ・ 国内でのホッキョクグマの繁殖計画に従い、継続して飼育を行う
- ・ 将来の動向により現行ホッキョクグマ舎を有効に活用していく

ホッキョクグマ



分布／北極圏

⑧動物ふれあい広場

展示テーマ

- ・ 動物とのふれあいを通して命の尊さを学べるエリアとする
- ・ 人と関わりの深い家畜や愛玩動物を展示し、人との関係や歴史について学ぶことのできる場を提供する
- ・ 子どもから大人まで、楽しむことのできる体験型プログラムを充実させる

主な施設

ふれあい広場

セキシヨクヤケイ舎

肥後五鶏舎

プレーリードッグ舎

主な動植物

ヤギ、ヒツジ、ポニー、ウサギ、モルモット、セキシヨクヤケイ、プレーリードッグ、肥後五鶏、あか牛（褐毛和種）（新規導入予定）

展示計画

実施目標

【令和3年度（2021年度）まで】

- ・ ふれあい広場でふれあいに供する動物の選定、動物ごとのプログラムを再構築する
- ・ 各年齢層に応じた体験型プログラムを検討、実施する

【令和11年度（2029年度）まで】

- ・ あか牛の導入を検討し、阿蘇の自然や熊本市との関わりなどを学べるようにする

【令和12年度（2030年度）以降】

- ・ エリア拡充を検討する

ヤギ (写真・説明はシバヤギ)		ヒツジ	
家畜種 (世界各地で飼育)		家畜種 (世界各地で飼育)	
ポニー		ウサギ	
家畜種 (世界各地で飼育)		家畜種 (世界各地で飼育)	
モルモット		セキショクヤケイ	
家畜種 (世界各地で飼育)		分布/中国南部からフィリピン、マレーシア、タイなど東南アジア	
プレーリードッグ		肥後チャボ	
分布/北アメリカ大陸の草原		分布/熊本	
久連子鶏		地すり	
分布/熊本		分布/熊本	
熊本種		天草大王	
分布/熊本		分布/熊本	

⑨亜熱帯の森

展示テーマ

- ・ 花の休憩所温室を利用し、亜熱帯に生息する動物と植物を一体的に展示する
- ・ 四季折々の郷土の鉢花を展示する

主な施設

花の休憩所（温室）

主な動植物

オウギバト等のハト類、
オウム・インコ類
リクガメ等のは虫類など
亜熱帯植物
肥後六花（鉢もの）
洋ラン

展示計画

実施目標

【令和3年度（2021年度）まで】

- ・ エントランスや展示スペースのリニューアルを行う
- ・ 洋ラン室や花鉢室に四季折々の郷土の花を展示する
- ・ 温室内の樹木を整理する（動物ゾーンへの移植、間引き）
- ・ 動物と植物を一体的に展示する方法を検討する
- ・ 一部の動物を温室へ移動し、飼育・展示を開始する

【令和11年度（2029年度）まで】

- ・ 現パプアニューギニア館で飼育している鳥類、リクガメ等の爬虫類の飼育を温室内で行うことを検討する

オウギバト		ムネアカカンムリバト	
分布/インドネシア、パプアニューギニア		分布/パプアニューギニア	
キンミノバト		モモイロインコ	
分布/東南アジアのインドネシアやニューギニア、ミャンマー沖にあるニコバル諸島、ソロモン諸島		分布/オーストラリア、タスマニア	
キバタン			
分布/オーストラリア、パプアニューギニア			

⑩水辺のいきもの探し

展示テーマ

- ・ 日本庭園下流域に江津湖に棲む水生生物を観察できる場所をつくる
- ・ 動物資料館で繁殖した水生生物の放流や流域環境の整備により、自然に繁殖ができる水辺環境をつくる

主な施設

日本庭園下流域

主な動植物

タカハヤ、モツゴなどの江津湖の魚類、カワニナ、エビ類
ヒラモ、水辺の植物など

展示計画

実施目標

【令和3年度（2021年度）まで】

- ・ 日本庭園下流域に生息する動植物調査を行う
 - ・ 日本庭園下流域を水生生物の棲みやすい環境へ整備する
 - ・ 被圧木（周辺の樹木に成長を阻害され樹勢が弱い樹木）等の整理を行い、明るい水辺空間を創出する
 - ・ 動物資料館で繁殖した水生生物を放流する
- ＊放流は生物多様性保全の観点に十分留意して行う

タカハヤ		モツゴ	
分布/富山県-静岡県以西の本州・四国・九州・五島列島・対馬		分布/関東地方以西の本州・四国・九州、東アジア	
カワニナ		ヒラモ	
分布/東アジア、日本		熊本県のみで自生する固有種。江津湖周辺などに分布し、柔軟な茎葉をもち長さ20～80cmになる。絶滅危惧Ⅱ類。	

⑪サクラの回廊

展示テーマ

- ・ 植物ゾーンの花畑横から水辺にかけて桜を充実させる
- ・ 江津湖との一体化を図り、水辺空間を演出する

主な施設

花畑から水辺にかけてのエリア

主な動植物

オオシマザクラ、ソメイヨシノ、チハラザクラ、ヤマザクラ等

展示計画

実施目標

【令和3年度（2021年度）まで】

- ・ 生垣を整理（移植、伐採）し、江津湖の水辺景観を望める展望デッキを設置する

【令和11年度（2029年度）まで】

- ・ 日本庭園下流域に様々な品種のサクラを植樹する

オオシマザクラ 分布／伊豆七島、伊豆半島、房総半島 伊豆七島、伊豆半島、房総半島に分布。伊豆七島のみが自生で、他は野生化し、たちのといわれています。3～4月に白色の花を咲かせます。		ソメイヨシノ 分布／日本全土 日本に広く植栽されています。オオシマザクラとエドヒガンに生まれた雑種です。3～4月葉に先立って淡紅白色の花を咲かせます。	
チハラザクラ 分布／熊本市千原台 熊本市島崎の千原台に原木がありました。現在は、保存会によって繁殖がはかれています。4月中旬に開花します。		ヤマザクラ 分布／日本（宮城県、新潟県以南、四国、九州） 宮城、新潟県以南、四国、九州に分布。暖帯、温帯の丘陵から低山地に広くはえ、植栽もされます。4月、新葉とともに淡紅白色の花が咲きます。	

⑫四季の花木園

展示テーマ

- ・ 四季を通じて樹木の変化が楽しめる展示を行う
- ・ 芝生や緑陰など植物の中でやすらぎを与える風景を作り出す

主な施設

春夏花木園、秋冬花木園、バラ園、梅園、低花木園

主な動植物

ウメ、バラ、モクレン、ハナミズキ、アジサイ、どんぐり類など

展示計画

実施目標

【令和3年度（2021年度）まで】

- ・ 梅園を活用した整備を行い、展示エリアを広げる
- ・ バラ園を活用した整備を行い、展示エリアを広げる
- ・ 肥後つばき一帯のエリアに、肥後六花コーナーを設け、肥後しゃくやく、肥後しょうぶ、肥後さざんかを移植する
- ・ 被圧木（周辺の樹木に成長を阻害され樹勢が弱い樹木）などの整理を行う

ウメ 分布／中国（原産）、東北地方～九州全域 中国原産。日本には古代渡来したと考えられます。東北地方から九州全域に植栽されています。庭園、盆栽に利用するほか、果実を塩漬け（梅干し）して食べます。		バラ 分布／北半球の温帯域 バラ科バラ属の総称で園芸種を総称する。古くから多くの品種改良がおこなわれており3万種以上の品種があるといわれる。樹形は、木立ち性や半つる性、つる性があり、開花性質は、一季咲き性や四季咲き性などがある。	
モクレン 分布／中国中部（原産）、日本（北海道南部～沖縄） 中国中部原産。北海道南部～沖縄に分布。公園、学校、花木、記念樹などとして植栽されています。		ハナミズキ 分布／北米、メキシコ（原産）、日本全土 北米、メキシコ原産。日本に広く分布します。園樹等に利用され花、実、紅葉がきれいです。4～5月頃白の4弁の花が上向きに咲きます。	
アジサイ 日本で生まれた園芸品種です。観賞用として広く栽培されています。花は6～8月開花し、土壌が酸性が強いと藍紫色、アルカリ性が強いと赤みを増加します。		どんぐり 分布／日本（本州、四国、九州） 本州、四国、九州に分布。山林に自生し、また植林されます。材は、器具・薪炭・染料などに利用されます。	

(1) 動植物園開園 100 周年記念整備エリア

展示施設の整備のうち、特に「アフリカの雄大な大地」エリアの一部となる現在の草食獣舎（シフゾウ舎～ニホンジカ舎）エリアについて、「開園 100 周年記念整備エリア」として大規模な改修を行います。

このエリアには、開園当初に建築された、園内でも一番老朽化した木造の動物舎があり、改修が必要です。また、開園当初は動物を展示すること自体が目的であったため、それぞれ多様な生息地の動物であっても柵で囲われた同様の造りとなっています。

そこで、本整備では、本来の生息環境に出来るだけ近づけるため広大なサバンナと低木林を再現します。また、サバンナの草原にいる動物の先に江津湖が望める景観を創出します。

エリアイメージの解説・イメージ図

- ・ 現シフゾウ舎からラマ舎付近をアフリカの低木地エリアとしてマンドリル、ヤマアラシ等を展示
- ・ 低木地エリアを抜けた場所に、サバンナエリアとしてライオン、キリン、シマウマ、エランド等の混合展示エリア、その先の江津湖を一望できるビューポイントを作り広大なサバンナ風景を見せる
- ・ パパアニューギニア館及びは虫類館は江津湖との一体的な眺望を確保するため移設を検討



（イメージ図上）熊本県立第二高等学校 美術科

1年 原 大知さん作

（イメージ図下）熊本県立第二高等学校 美術科

1年 河津 若菜さん作



（図 2）整備エリアイメージ図

【スケジュール】

9-①-(イ) 開園100周年記念 整備エリア	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	検討		基本計画	基本設計	詳細設計
	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
	工事				実施

(ウ) 展示方法の改善

展示方法に関しては、国、自治体、博物館、大学等との連携を通して教育・種の保存・調査研究につながるよう改善を行います。

a. 体験型、近くで観察できる展示を目指します

- ・ 柵を少なくした展示を行い、生息地の環境を感じ、動物を近くで観察できる展示に取り組みます。
- ・ 動物を飼育している放飼場に人が入るなど、より近くで動物を観察できる展示に取り組みます。
- ・ 直接触る・体験することができるハンズオン展示（骨格、羽などの副産物や教材等を触れる展示、めくり式看板で体のつくりを知る、体重や大きさの比較など）を行い、食性、生活形態、体のつくりの違いなどを実感できる展示に取り組みます。
- ・ 動物に関する知識を深め、さらに動物に興味を持ってもらうために、動物に触れる、においや鳴き声などをより近くで実感できる、エサを与え食べるところを観察するなどの体験型の展示に取り組みます。



(写真) 当園の柵を少なくし、動物を近くで観察できるような展示例



(写真) 実際に触って動物の特徴を実感できる展示サイン（ハンズオン展示）

b. 動植物を一体化した展示に取り組み、生息域を感じる展示を目指します

- ・動物舎には生息環境に合わせた植樹を行い、植樹が困難な動物舎には木や枝などを設置します。
- ・それぞれの動物が暮らす環境を再現することに加え、人やその生活文化と動植物との関わりについても学べるものにします。
- ・「ふるさとの自然エリア」に関しては、熊本や日本国内で見ることが出来る動植物を展示し、ふるさとの原風景を実感できるようにします。



(写真) 放飼場への植樹（左）と自然木で遊ぶチンパンジー（右）



(写真) ニホンザル舎における球磨郡相良村の奥山と里山をイメージした展示施設

c. 動物の福祉に配慮した展示に取り組みます

- ・動物の健康管理、疾病管理を適正に行います。
- ・群れを作る動物、単独で行動する動物など、動物種によって行動様式が様々なため、その動物種本来の行動様式を考慮した展示を行います。
- ・施設更新の際にはその動物の生息域を考慮した施設づくりを行います。
施設更新ができない場合でも、飼育動物の活動が単調にならないよう環境エンリッチメント（注1）に取り組みます。

注1）環境エンリッチメント

野生の動物は生息域を自由に動き回り、1日のほとんどをエサの探索に当てる。一方、動物園の飼育動物は限られたスペースの中で生活せざるを得ないため単調な生活になりがちで、異常行動等につながりやすい。そこで、動物に対する生活の質の向上を目的に飼育環境にエサを入れたフィーダー（給餌装置）や遊具を入れたりして生活を豊かにすること。



（写真）キリンの群れ展示



（写真）環境エンリッチメントの取り組み（チンパンジーがフィーダーや道具を使う様子）

【スケジュール】

9－①－(ウ) 展示方法の 改善	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	計画策定		実施		
	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
	実施				

② 種の保存・調査研究の推進

(ア) 種の保存

- ・国内外の状況を勘案した展示種や点数の見直しによる、動植物種のコレクションプランを策定し、これに基づき、動植物の収集、繁殖・増殖に取り組みます。
- ・絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律における「認定希少種保全動植物園等」(注2) 制度の認定を目指し、定められた基準を満たすとともに、希少動植物種の保護増殖事業に積極的に取り組みます。

注2)「認定希少種保全動植物園等」

絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律の一部改正により、「認定希少種保全動植物園等」制度が創設されました。希少種の保護増殖という点で、一定の基準を満たす動植物園等を認定する制度であり、認定された動植物園等が行う希少野生動植物種の譲渡し等については、規制を適用しないこととします。

【スケジュール】

9-②-(ア) コレクションプランの策定	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	検討	策定	継続実施		
	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
	継続実施				

(イ) 調査研究事業の推進

- ・専門知識を持つ職員の育成を行い、動植物についての調査研究を推進し、学会発表・論文投稿などを積極的に行います。
- ・国、自治体、博物館、大学等との連携を通して、自然科学分野の調査研究・展示を発展・充実させます。

【平成30年度(2018年度) 調査研究事例の一部】

- ・地域の生物多様性に関するほ乳類類相およびカメ類に関する調査
- ・クロサイの行動観察
- ・右股関節離断手術を行ったチンパンジーの術後のリハビリテーションについて

【スケジュール】

9-②-(イ) 調査・研究事業の推進	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	実施				
	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
	実施				

③ 自然環境教育の推進

(ア) 「いきもの学習センター」の設置

現在の動物資料館を、希少動植物の繁殖や生息域外保全の拠点とするとともに、子どもたちに楽しく分かりやすい学習の場を提供する「熊本市の自然環境教育の拠点」となることを目指した、「いきもの学習センター」へと見直します。

a. 調査・研究事業

- ・トサシミズサンショウウオやニッポンバラタナゴのほかスイゼンジノリ、キタミソウ等の希少動植物について、繁殖・増殖・調査研究を行います。

b. 展示改善

- ・熊本県内に生息する動植物の展示を充実させ、熊本の多様な自然環境を楽しく学んでもらう取り組みを行います。
- ・動物資料館で所有している貴重な剥製や骨格標本の展示を充実し、すでに見ることが出来なくなった動物や生態による骨格の違いなどを学ぶ「動植物園の中の博物館」としての展示に取り組みます。
- ・希少動植物の繁殖・展示のための設備を充実させ、来園者も観て楽しめる研究室として整備します。

c. 自然環境教育の拠点施設

- ・生物多様性に関する講習会、シンポジウム等を積極的に開催するとともに、生物多様性、環境保全に関する情報を収集し、情報拠点としての役割を果たします。
- ・生物多様性、環境保全に取り組む市民の情報発信の場とするとともに、これらの活動に取り組む市民等が集い、情報共有・連携協力ができる協働の場としても活用します。

【スケジュール】

9-③-(ア) いきもの学習 センターの整備	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	計画策定	運用(ソフト整備、現行施設活用)			設備設計
	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
	施設整備(常設展示)		施設整備(水槽等施設)		実施

(イ) 学習プログラムの整備

これまでの学習プログラムの内容を体系的に見直すとともに、各年齢層に応じた魅力的なプログラムの開発・実施に取り組みます。

- ・教材、技術、人材などの開発に努めるとともに、計画、実施、評価を行い、教育の場としての機能の充実を図ります。
- ・学校教育との連携を行い、年間カリキュラムに沿った学習プログラムの開発を支援します。
- ・環境エンリッチメントのための動物のエサや遊び道具の設置、生活環境改善のための植樹、飼育員体験など参加体験型のプログラムを充実させます。
- ・「動物ふれあい広場」では、ふれあいプログラムを再構築し、各年齢層に応じた体験型プログラムを実施します。
- ・「ふるさとの自然」エリアや「水辺のいきもの探し」エリアを活用し、身近な環境や生物多様性を学ぶことができるプログラムを実施します。
- ・植物講習会のプログラムを再構築し、ふるさとの自然を理解するため、園芸種・栽培種に関するものから野性の固有種や希少種に関するものまで学ぶことができるプログラムを実施します。



写真：動物のエサの食べ方の特徴を近くで観察するガイド
写真：エサの調理・設置を行う体験プログラム（右上）と飼育員体験（右下）

【スケジュール】

9－③－(イ) 学習プログラムの整備	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	実施				
	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
	実施				

10. 江津湖との調和。水辺動植物園を再び

①「(仮称) 水辺のインフォメーションセンター」の設置

動植物園は、水前寺江津湖公園の中に位置しています。公園全体の面積は約 127ha と広く、江津湖の湧水に育まれた豊かな自然環境が残されており、様々ないきものが生息しています。また、古くから自然と人とが共存してきたことで、歴史的、文化的資源も数多く残されています。

このように、水前寺江津湖公園は、市民の憩い場に留まらず、環境学習や歴史文化の探訪、観光など、あらゆる要素を兼ね備えた公園であるにも関わらず、その魅力を一体として発信することができていない状況にあります。

動植物園は年間約 74 万人の来園者を誇り、水前寺江津湖公園の中において、最も人気のある施設の 1 つです。そこで、動植物園の無料エリアに「(仮称) 水辺のインフォメーションセンター」を設置し、江津湖全体の魅力を感じられるような情報の集積と発信の拠点とします。

(7) 江津湖に棲むいきものの展示

- ・現在の動物資料館で展示している、江津湖の水生生物を展示します。
- ・いきものの展示を江津湖へのエントランスと位置づけ、江津湖での観察会やいきものの学習センターでの繁殖や調査研究へ興味を持てるような展示に取り組みます。

(1) 江津湖のインフォメーション機能

- ・湧水やホタルのビューポイント、スイゼンジノリ特別保護区など、江津湖の自然、更には歴史や文化に関する一体的な情報発信を行います。
- ・水前寺江津湖公園全体のイベント情報を集約し、各イベント主催者との連携を図ります。

【スケジュール】

10-① 「(仮称)水辺のイン フォメーションセンター」 の設置	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	設計	工事	実施		
	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
	実施				

② 最高の景色を満喫できるビューポイントの設置

動植物園に江津湖と隣接している場所が多くありますが、江津湖を眺望できる場所は、ゾウ舎の南側などの一部しかありません。

これまで、園内からの江津湖の眺望場所として、砦（とりで）遊具やデッキの整備などを行ってきましたが、フェンスや生い茂る樹木により視界が遮られ、江津湖の美しい景色を満喫しにくい状況となっています。

このような状況を改善し、江津湖のビューポイントを創出するために、展望デッキの設置や展示物でもある生垣の整理を行います。

また、最高の景色を満喫いただくとともに、野生に棲むいきものの観察ができるような水辺空間の創出に取り組みます。



（写真）砦（とりで）遊具のデッキからの眺望



（写真）江津湖湖畔にある桜並木と生垣見本園

【スケジュール】

10－② 最高の景色を満喫できる ビューポイントの設置	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	設計		工事		実施
	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	
	実施				

③ 江津湖畔を活かしたカフェを中心とした施設の導入

来園者アンケート（資料編 P73 参照）の中で、「これからの動植物園に必要と思われるものについて」の設問では「飲食施設（レストランなど）の充実」と回答された方が 173 名（32.8%）と多く、飲食施設の充実も必要と考えています。

また、江津湖に面した敷地を有効活用し、園外からも利用できるような魅力的な施設とすることで、それを目的に江津湖を訪れる人々の、動植物園に来園するきっかけとなり、新たな集客へつなげることもできます。

そこで、民間活力の導入を基本に、PPP（公民が連携して公共サービスの提供を行うスキーム）の枠組みの中で、民設民営のカフェやレストランを中心とした施設の導入を検討します。



（写真：例）京都市動物園の図書館カフェ）

【京都市動物園ホームページより抜粋】

【スケジュール】

10-③ 江津湖畔を活かしたカフェやレストランを中心とした複合施設の導入	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	調査・検討				
	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)

④ 江津湖畔の立地を活かした動植物展示

現在の動物の展示施設は、江津湖を背に観覧する配置になっており、江津湖の美しい景色が活かされず、江津湖との一体感を感じられないことが課題となっています。

「水辺動物園」という原点に立ち返り、江津湖に隣接している立地を十分に活かした動植物の展示を目指します。

● 動植物園開園 100 周年記念整備エリア（再掲:9－①－(イ)・P30 参照）】

- ・ 低木地エリアを抜けた場所に、サバンナエリアとしてライオン、キリン、シマウマ、エランド等の混合展示エリア、その先の江津湖を一望できるビューポイントを作り、広大なサバンナ風景を見せるようにします。
- ・ パプアニューギニア館及びは虫類館は、江津湖との一体的な眺望を確保するために移設を検討します。

【スケジュール（再掲）】

9－①－(イ) 開園100周年記念 整備エリア	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	検討		基本計画	基本設計	詳細設計
	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
	工事			実施	

11. 優しさと魅力あふれる動植物園づくり

① 開園 100 周年へ向けての新しい顔・正面ゲートリニューアル

正面ゲートは、建設から 30 年以上が経ち施設の老朽化が進む中、平成 28 年熊本地震により、既存の杭に損傷を受けるなど大きなダメージを負いました。

現在も、一部は立ち入り禁止とするなど安全を確保しつつ、解体しないままの状態で運営を続けていますが、今後より安全で魅力あるゲートを整備する必要があることから、動植物園の新たなシンボルとして、正面ゲートのリニューアルを行います。

また、リニューアルにあたっては、スムーズな入退園動線計画、バリアフリー対応、掲示方法の改善、管理事務所機能統合によるサービス及び利便性向上、売店・飲食店の充実等を検討し、より優しく、魅力あふれ、来園者の皆様から愛される正面ゲートを目指します。



(写真) 現在の正面ゲート

【スケジュール】

11-① 正面ゲート リニューアル	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	工事		運用		
	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
	運用				

②来園者に優しい施設整備の推進

(ア) ベビーカーや車椅子、高齢者に優しい園路の整備

全ての来園者が快適に園内を散策できるように、園路に発生している凹凸や段差等、通行の妨げになっている箇所をフラットに改修し、誰もが安全にストレス無く通行できる園路へと整備を行います。

また、目線の低いベビーカーや車椅子等の方の視線を遮らないよう、高さ、形状、構造を考慮したフェンスや手摺の採用も検討します。



(写真) 草食獣舎横のフェンス



(写真) 現在のオタリア舎横の園路

【スケジュール】

11-②-(ア) 園路の整備	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	設計	工事		実施	
	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
			実施		

(イ) 夏の日差しが木陰で遮られた休憩スペースやベンチの設置

動植物園は約 24.5ha という敷地を有しており、休憩スペースの適切な配置は、快適な空間づくりを行う上で必要不可欠です。

来園者アンケート（資料編 P73 参照）の中で「これからの動植物園に必要と思われるものについて」の設問でも、「ゆとりある広場や木陰の空間づくり」が必要と 198 名（37.5%）の方が回答されています。

そこで、現在設置しているベンチの取り換えや改修を行うとともに、植物ゾーンの樹木を移植することで木陰の休憩スペースを増やし、ベンチの追加設置を行います。



(写真) ベンチ設置後のイメージ



(写真) 現在の破損したベンチ

【スケジュール】

11－②－(イ) 休憩スペース、 ベンチ設置	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	検討	設置	実施		
	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
	実施				

(ウ) 案内サインの改修

現在の案内サインは、老朽化が進んでいることに加え、表示位置が高く、文字も小さいため、小さな子どもや高齢者には見えにくい状況です。

そこで、今後の海外からの観光客増も見据えながら、外国語表記も含めた統一感のあるデザインにより、全ての来園者にわかりやすい案内サインへの見直し及び改修を行います。

また、市電「動植物園入口」電停から正面ゲートまでの園路についても、動植物園の入口として、わくわく感が高まるような案内サイン設置の検討を行います。



(写真) 現在の案内サイン

(写真) 電停からの案内サイン

【スケジュール】

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
11－②－(ウ) 案内サイン改修	検討		設置		実施
	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
	実施				

(I) 誰もが使いやすいトイレ（洋式化・温熱洗浄機能付）

来園者アンケートの「改善要望」（P77 参照）の設問では、183 名のうち最多の 38 名（20%）の方がトイレの改善を要望され、その意見の多くが「洋式化」「清潔なトイレの充実」となっており、今後早急な対応が必要と考えています。

現在 73 基ある便器のうち洋式は 21 基にとどまり、また利用者の多い屋外トイレの 5 棟全てが築 25 年を過ぎ、屋根、外壁、衛生設備が老朽化している状況です。

今後早急にトイレ洋式化への改修を進めるとともに、園内での配置を見直します。また音響や擬音装置に動物の声を取り入れるなど、動植物園らしい演出を行うことにより快適な空間の創出を図ります。



（写真）現在の子ども列車横屋外トイレ（1989 年(H1)築）

【スケジュール】

11－②－(エ) 園内トイレ改修	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	工事		実施		
	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
	実施				

③来園者へ魅力あふれる空間の提供

(7) 快適性・娯楽性を兼ね備えた体験型涼場づくり

来園者アンケートの「施設の満足度」の設問（資料編 P71 参照）では、「暑さ・寒さ対策」の項目で、「やや不満」を含め、「不満」という回答が、92 名（17.7%）から寄せられています。

動植物園は、基本的に屋外施設であることから、気温の高い夏場は入園者数が大幅に減少するなど、季節や天候によって大きく変動します。

そこで、暑い夏に少しでも涼しげな演出ができるよう、花の休憩所前に設置してある噴水施設について、「見る」から「触れる」施設への転換を検討します。

これにより夏場は子供たちの遊び場となるとともに、大人もミスト等で涼を得られます。また、夜間開園時はミストをライトアップすることで、快適性と娯楽性を兼ね備えた新たなシンボルスポットとなることを目指します。



（写真）花の休憩所前噴水



（写真）体験型涼場イメージ

【スケジュール】

11-③-(ア) 体験型涼場 づくり	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	設計	工事	実施		
	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
	実施				

(イ) 夜間開園に対応した園内照明の改修

平成 30 年度(2018 年度)の 12 月には、全面開園を記念してクリスマスの夜間開園を実施し、3 日間で 2 万 5 千人以上の来園者がありました。

これまでも夏休み期間中は恒例のイベントとして夜間開園を実施してきましたが、本来、夜間の開園を想定していなかったため、十分な街路灯が設置されておらず、夜間開園の際には、照明確保のためにその都度提灯の設置・撤去を行っている状況です。

また、現在街路灯で使用している水銀ランプは、LED ランプの普及によりメーカーが製造を中止し入手困難となりつつあることから、既存の街路灯を LED に取り替える必要があります。

夜間開園については、来園者アンケートの「イベントについて」の設問（資料編 P72 参照）でも一番人気のイベントであったことから、今後も季節を問わず継続的に実施したいと考えており、また水銀ランプの供給停止に対応するためにも、街路灯の増設と LED ランプへの改修を行います。



(写真) 現在の照明設備

(写真) 夜間開園の様子

【スケジュール】

11－③－(イ) 園内夜間照明改修	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	工事		実施		
	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
	実施				

(ウ) 様々な年代の来園者が楽しめる遊戯施設の導入

動植物園の遊戯施設エリアは来園者にとっても人気があり、幼児から大人まで多くの方々に楽しんでいただいています。その為、遊戯施設使用料は自主財源の54%を占めるなど、園にとって重要な収入源となっています。

しかしながら、現在は人気のあったディスク・オーやスーパーバイキングを老朽化等により撤去したため、小学校高学年生や中高生が楽しめる遊戯施設がない状況です。

今後、新たな来園者の集客も視野において、子育て世代に加え、幅広い年代層が楽しめる遊戯施設の導入について検討して参ります。



(写真上) 被災し撤去した
スーパーバイキング



(写真右) 老朽化で撤去した
ディスク・オー

【スケジュール】

11－③－(ウ) 新たな遊戯施設の導入	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	検討	工事	実施		
	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
	実施				

④災害等の非常事態への対策

平成 28 年(2016 年)4 月に発生した熊本地震で、動植物園も甚大な被害を受けました。前震、本震ともに発災は閉園時でしたが、もし開園時に地震が発生していれば、多くの来園者に混乱を招く事態が予想されました。

今後は、熊本地震での経験や被害状況を基に、既存の非常事態対策マニュアルを見直し、新たな災害時マニュアルを策定するとともに、新規・転入職員研修の徹底や防災訓練を実施し、職員の意識と対応レベルの向上を図ります。

併せて、来園者にも分かりやすい災害時避難誘導サインを設置し、的確な職員対応と明確な避難指示により、今まで以上に来園者が安心できる動植物園の構築に努めます。

また、動植物園の駐車場は、熊本地震発生直後より避難者の車中泊スペースとして、更には災害ボランティアセンターとしても利用していただきました。今後万が一にも大規模災害が発生した場合には、駐車場を一時避難所として提供するとともに、被災者支援のための活用方法についても検討を行います。



(写真) 動植物園の駐車場に設置された
災害ボランティアセンター

【スケジュール】

11-④ 災害等の 非常事態への 対策	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	検討・実施		サイン導入	検討・実施	
	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
	検討・実施				

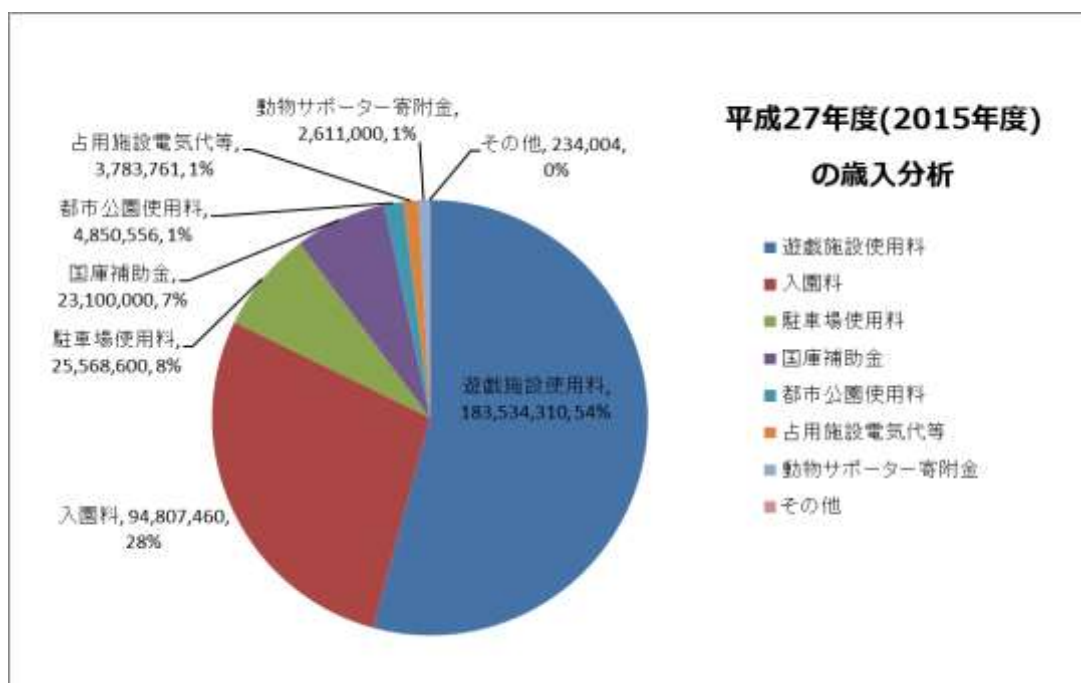
12. 愛され続けるための運営体制の強化

① 歳入の確保

熊本地震前に通常開園していた平成 27 年度(2015 年度)の動植物園の歳入は、約 3 億 3 千 8 百万円です。その主な内訳は（図 3 参照）遊戯施設使用料が全体の 54%、入園料収入が 28%、駐車場使用料が 8%です。その他に、投資的経費の歳出に付随する国庫補助金や、都市公園使用料、動物サポーター寄附金などがあります。

一方、歳出は約 10 億 7 千 8 百万円であり、その差額の約 7 億円を一般財源（税金）で負担していることから、収支の改善が課題となっており、今まで以上に歳入を確保する必要があります。

そこで、本計画の目的にある、利用者にとって更に魅力ある空間を創出し、集客力の向上に取り組むことを基本としつつ、歳入の半分を占める遊戯施設使用料について、魅力ある新たな施設の導入による増収を図るとともに、入園料、駐車場使用料などの受益者負担金の見直しについても検討を行います。



(図 3) 平成 27 年度(2015 年度)の歳入分析

(7) 遊戯施設導入による使用料の確保【(再掲：11-③-(ウ)・P48 参照)】

遊戯施設使用料は自主財源の 54%を占めており、園にとって重要な収入源となっています。

しかしながら、現在は人気のあったディスク・オーやスーパーバイキングを老朽化等により撤去したため、小学校高学年や中高生をターゲットとした遊戯施設がない状況です。

今後、新たな機種の導入検討に際しては、幅広い年代層にも楽しめる遊戯施設の導入を行い、子育て世代に加え、新たな来園者の獲得へつなげます。

【スケジュール (再掲)】

11-③-(ウ) 新たな遊戯施設の導入	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	検討		工事		実施
	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
	実施				

(1) 新たな来園者の獲得に向けた広報戦略

動植物園の広報の手段としては、園公式ホームページ、市政だより等の広報媒体を利用した継続的な情報発信や、イベント時に作成するチラシ・ポスター、マスメディアへの話題提供、園内で配布するパンフレット（園内マップ）などがあります。また、平成 30 年度(2018 年度)からは、これらに加え、Facebook や Twitter、Instagram などの SNS の活用に取り組んでいます。

動植物園の情報を必要とする人の目的はさまざまです。今後は、海外からのインバウンドも含め、ターゲットに合わせた効果的な情報発信方法を検証し、広報媒体の特徴を活かしながら「情報を届ける」広報への転換を図ります。

【スケジュール】

12-①-(イ) 新たな来園者の獲得 に向けた広報戦略	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	検証・実施				
	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
	検証・実施				

(ウ) 新たな来園者の獲得に向けたイベント編成

動植物園では、これまで「春のこどもまつり」や「秋桜まつり」など繁忙期を中心にイベントに取り組んできました。(図4参照)

これらのイベントについては、リピーターの確保や園の広報戦略として有効であり、今後も必要と考えています。

一方、夏季や冬季の閑散期対策として、大人など家族連れ以外のターゲット獲得のためのイベントを開催することで、新たな来園者の獲得を目指すことも必要です。

今後は、繁忙期や閑散期に応じた、より効果的なイベントを実施し、さらに、実施したイベントを評価・検証し改善を図りながら年間の計画へ反映させるなど、来園者のニーズに即したイベントへと随時見直します。

実施時期	イベント名
5月ゴールデンウィーク	春のこどもまつり
5月中旬	ホタル観賞会
6月上旬	ドリームナイト・アット・ザ・ズー in くまもと
7月～8月 夏休みの毎週土曜	夏の夜間開園
9月上旬	ドリームナイト・アット・ザ・ズー in くまもと 秋
10月上旬の3連休	秋桜まつり
1月2日～3日	新春こどもまつり&干支の動物展

(図4) これまでの主なイベント

【スケジュール】

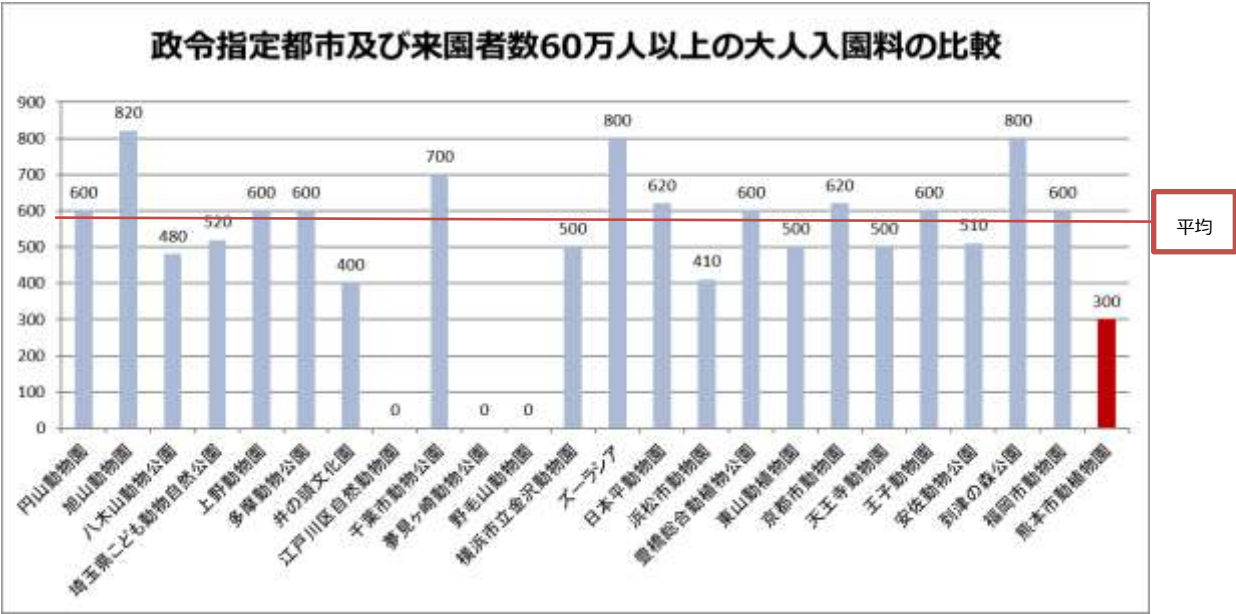
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
12-①-(ウ) 新たな来園者の獲得 に向けたイベント編成	検証 →		検証・実施 →		
	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
	検証・実施 →				

(I) 受益者負担の見直し

動植物園の大人の入園料について、他の政令指定都市及び入園者数 60 万人以上の地方公共団体が運営する日本動物園水族館協会加盟の園（以下、「他園」という。）との比較をすると（図 5 参照）、他園（無料である園を除く）の平均 589 円に比べ安価であるため、令和 2 年 4 月より、平成 9 年（1997 年）以来、約 22 年振りに入園料の改定を行うこととしました。（図 6 参照）

次に、駐車場使用料（図 7 参照）は、普通車等について他園と比較を行った（図 8 参照）ところ、全国的にも安く、また有料化している他園で平日無料となっている園は 1 つもない状況です。

このようなことから、受益者負担の適正化を図るため、社会経済情勢の変化等を踏まえ、今後も受益者負担の見直しに取り組みます。



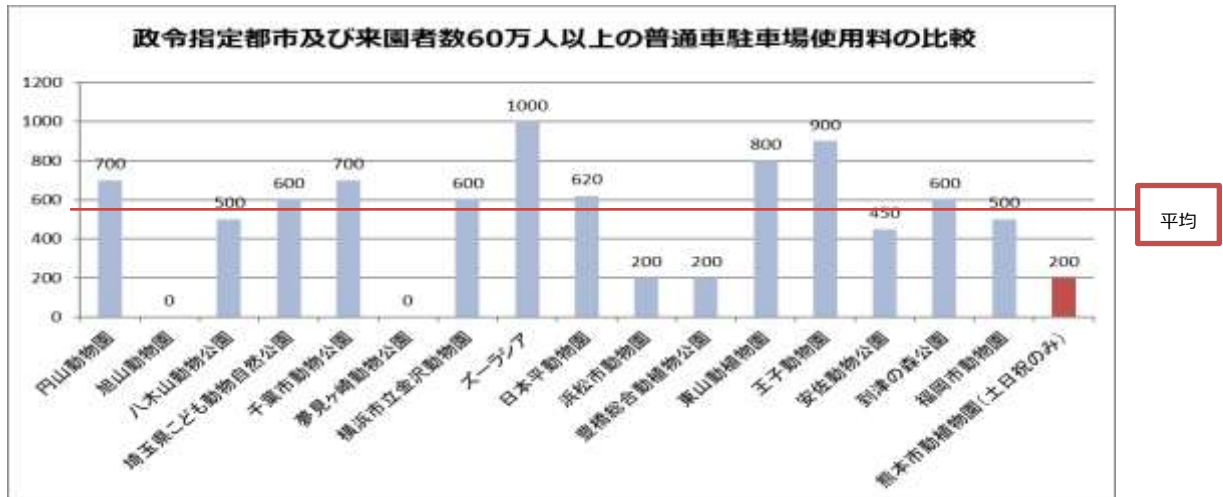
(図 5) 他都市の入園料比較表(令和元年(2019 年)10 月現在)

区分	改正前金額	改正後金額(R2.4.1から)
一般 1人1回につき	300円(団体の場合は、240円)	500円(団体の場合は、400円)
小学生・中学生 1人1回につき	100円(団体の場合は、80円)	100円(団体の場合は、80円)
幼児 1人1回につき	無料	無料

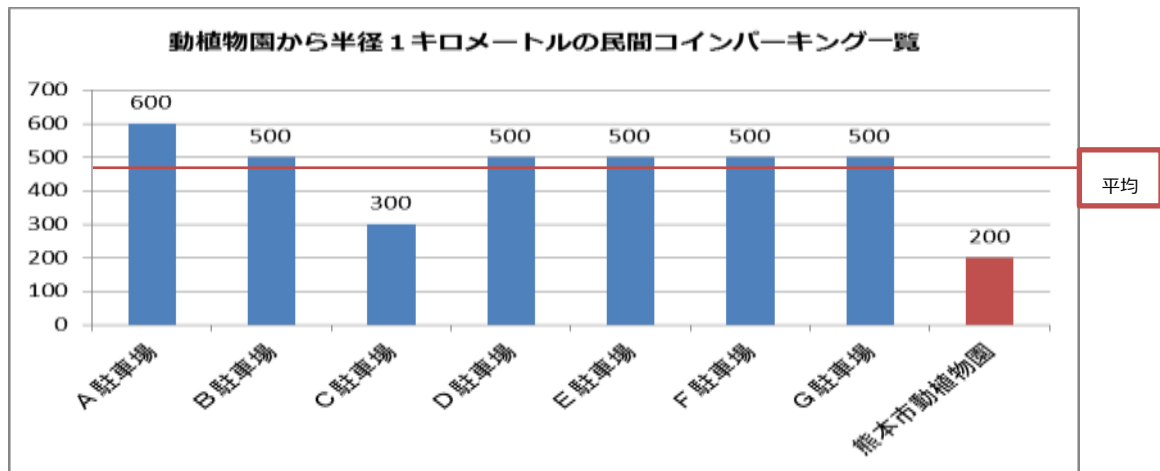
(図 6) 動植物園の入園料

使用日 \ 車両区分	大型自動車(1台1回につき)	中型自動車および普通自動車(1台1回につき)
土曜日、日曜日及び休日	1,000円	200円
平日	無料	無料

(図7) 動植物園の駐車場使用料



(図8) 他都市の駐車場使用料比較表(令和元年(2019年)10月現在)



※比較料金は、3時間駐車した場合の料金。(来園者アンケートの滞在時間の平均より)

(図9) 近隣時間貸し民間駐車場料金比較

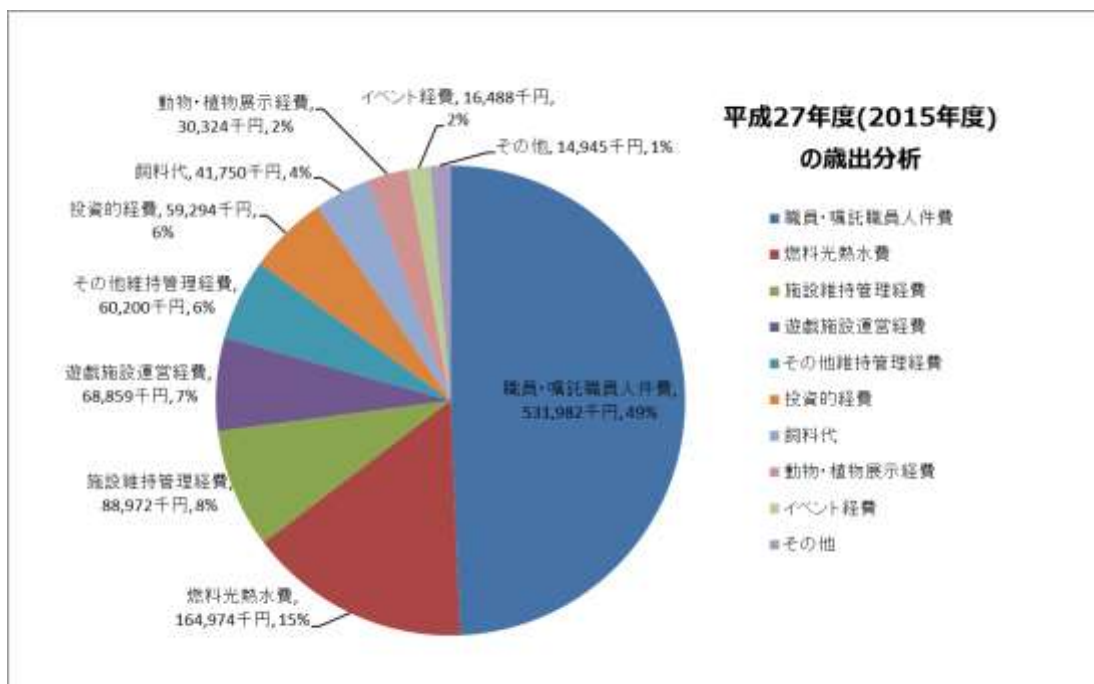
【スケジュール】

12-①-(エ) 入園料・駐車場使用料の見直し	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	検討				
	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
	検討				

② 更なる歳出削減

平成 27 年度(2015 年度)の動植物園の歳出構造は(図 10 参照)、まず、職員や嘱託職員の人件費が全体の約 49%を占めています。次いで、燃料光熱水費(電気代や水道料金など)が 15%、遊戯施設や動物舎などの修繕等の施設維持管理経費が 8%です。さらに、遊戯施設の運営経費や、施設の保守点検や清掃等の経費、動物の飼料(工サ)代など、運営上欠かせない経常経費が歳出総額に対し 89%を占めている状況です。

このうち、入園料等の自主財源で賄っている割合(自主財源比率)は、現在約 31%に留まっていることから、将来的に管理経費の約半分を賄うことを目標に、先ほど述べた歳入の確保策に加え、歳出削減に向け以下のような取り組みを進める必要があります。



(図 10) 平成 27 年度(2015 年度)の用途別歳出分析

●主な歳出削減に向けた取り組み

a.燃料光熱水費

燃料光熱水費は、主に電気代、水道料金や下水道使用料、ガソリン代等の燃料費があります。使用量の更なる節約に努めます。

b.飼料代（動物のエサ代）

飼料代については、野菜に加え、栄養価が高く安価なペレットを併用します。

c. 園内施設の長寿命化対策

施設維持管理経費は、施設の修繕や補修工事費、遊戯施設の整備費などがあります。施設の長寿命化計画をもとに、施設の延命とライフサイクルコストの低減、更には費用の平準化を図ります。

d.イベント経費

各種イベントについては、費用対効果の見込まれるものへ見直すとともに、更に効率化を図ります。

e.効率的な管理運営の検討

カフェ等の運営について、PPP（公民が連携して公共サービスの提供を行うスキーム）などの民間活力の導入も検討します。

f.人件費

簡素で効率的な組織運営体制の構築を目指します。体制構築にあたっては、個々の職員が改革の意識を持ち、業務プロセスの見直しを図ります。

【スケジュール】

12-② 歳出削減に 向けた取組み	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	実施				
	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
	実施				

③ ボランティア制度の見直し

動植物園におけるボランティア制度として、「動物ボランティア」、「植物ボランティア」、「ステージボランティア」の3つの制度がありますが、現在は、新規募集を行っておらず、一部のイベント支援や植物園管理などに留まっています。

市民や地域に根差し、愛され続ける動植物園を目指すためには、多くの方々に動物ガイドや植物管理など担い手となる協力者を育成し、市民協働のもと園の運営を行っていくことが必要です。

今後は、ボランティアへの参加者を個人のみならず企業や団体など幅広い対象とすることで、より協力を得られ易い制度へ見直しを図ります。

【スケジュール】

12-③ ボランティア制度の 見直し	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	検討 →		実施 →		
	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
	実施 →				

④ 動物サポーター制度の見直し

現在動植物園が行っている寄附金制度として、動物の工サ代の財源確保を目的とした「動物サポーター」制度があります。また、平成29年(2017年)2月25日からの部分開園期間中には、動植物園の災害復旧経費の支援を目的とした「動植物園復興応援サポーター」制度を実施してきました。

本計画で掲げる、愛され続ける動植物園を目指し、魅力ある施設整備を進めながらの運営には、更に多額の経費が必要となってまいります。

そこで、施設整備の新たな財源とするため、現在の動物サポーター制度を見直し、今後取り組む展示施設の整備に活用することを目的とした「(仮称)熊本市動植物園100周年施設整備基金」の設置を検討します。

動物サポーター寄附金年度別推移表

年度	口数	金額
平成17年度 (2005年度)	1,903	3,222,000
平成18年度 (2006年度)	1,519	2,475,000
平成19年度 (2007年度)	1,164	1,908,000
平成20年度 (2008年度)	1,492	2,454,000
平成21年度 (2009年度)	1,538	2,489,000
平成22年度 (2010年度)	1,552	2,545,000
平成23年度 (2011年度)	1,409	2,282,000
平成24年度 (2012年度)	1,466	2,428,000
平成25年度 (2013年度)	1,431	2,292,000
平成26年度 (2014年度)	1,515	2,431,000
平成27年度 (2015年度)	1,615	2,611,000
平成28年度 (2016年度)	118	174,000
平成29年度 (2017年度)		
平成30年度 (2018年度)	754	1,586,000
合計	17,476	28,897,000

(図11) 動物サポーター年度別推移表

復興応援サポーター寄附金年度別推移表

年度	件数	金額
平成28年度 (2016年度)	374	4,001,667
平成29年度 (2017年度)	658	23,641,892
平成30年度 (2018年度)	115	10,109,884
合計	1,147	37,753,443

※平成28年度(2016年度)は、

平成29年(2017年)2月25日から開始

※平成30年度(2018年度)は、

平成30年(2018年)12月22日まで

(図12) 復興応援サポーター年度別推移表

【スケジュール】

12-④ 動物サポーター制度の 見直し	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	検討・条例制定		実施		
	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
	実施				

13. 全体スケジュール

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
9-①-(イ) 開園100周年記念整備エリア	検討		基本計画	基本設計	詳細設計	工事				実施
9-①-(ウ) 展示方法の改善	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
	計画策定		実施							
9-②-(ア) コレクションプランの策定	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
	検討	策定	継続実施							
9-②-(イ) 調査・研究事業の推進	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
	実施									
9-③-(ア) いきもの学習センターの整備	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
	計画策定		運用(ソフト整備、現行施設活用)		設備設計	施設整備(常設展示)	施設整備(水槽等施設)		実施	
9-③-(イ) 学習プログラムの整備	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
	実施									
10-① 「(仮称)水辺のインフォメーションセンター」の設置	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
	設計	工事	実施							
10-② 最高の景色を満喫できるビューポイントの設置	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
	設計	工事	実施							
10-③ 江津湖畔を活かしたカフェやレストランを中心とした複合施設の導入	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
	調査・検討									
11-① 正面ゲートリニューアル	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
	工事		運用							
11-②-(ア) 園路の整備	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
	設計	工事	実施							
11-②-(イ) 休憩スペース、ベンチ設置	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
	検討	設置	実施							
11-②-(ウ) 案内サイン改修	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
	検討	設置	実施							
11-②-(エ) 園内トイレ改修	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
	工事		実施							
11-③-(ア) 体験型涼場づくり	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
	設計	工事	実施							
11-③-(イ) 園内夜間照明改修	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
	工事		実施							
11-③-(ウ) 新たな遊戯施設の導入	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
	検討	工事	実施							
11-④ 災害等の非常事態への対策	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
	検討・実施		サイン導入	検討・実施						
12-①-(イ) 新たな来園者の獲得に向けた広報戦略	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
	検証・実施									
12-①-(ウ) 新たな来園者の獲得に向けたイベント編成	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
	検証		検証・実施							
12-①-(エ) 入園料・駐車場使用料の見直し	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
	検討									
12-② 歳出削減に向けた取組み	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
	実施									
12-③ ボランティア制度の見直し	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
	検討		検証・実施							
12-④ 動物サポーター制度の見直し	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
	検討・条例制定		実施							

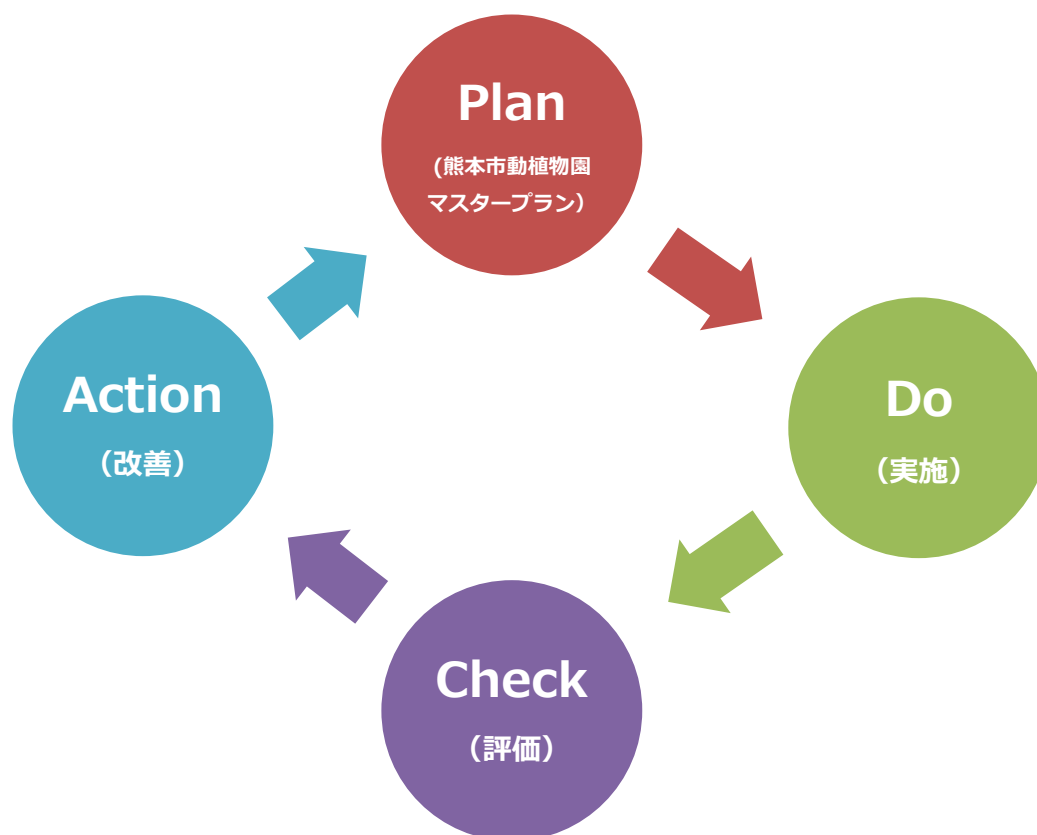
1 4．進捗管理・見直し

本計画のコンセプト「愛され続ける水辺の動植物園へ」を目指すためには、各テーマに掲げた計画実現に向けた取り組みを着実に実施していくことが必要です。また、時代に沿ったニーズや動植物を取り巻く世界情勢の変化への対応、更には熊本市の財政状況を総合的に勘案し判断していくことも重要です。

そこで、本計画の各テーマに掲げた取り組みの効果が有効なものとなるために、PDCA サイクルに基づき進捗管理を行うとともに、計画期間の中間年度（令和 7 年度(2025 年度)）に、成果指標の達成状況の評価及び課題の検証を行います。

なお、本計画については、進捗管理や評価を行う中で、今後の事業展開に大きな状況の変化が生じた場合には、必要に応じて見直しを行うこととします。

【進捗管理イメージ】



15. 来園者アンケート調査

(1) 来園者アンケート調査の実施目的

動植物園のあるべき姿を検討するにあたり、来園者のニーズを把握することが重要と考え、来園者が動植物園に求めるものは何か、現施設において何に満足し、どう改善してほしいかを把握し、今後の動植物園の事業運営の参考にさせていただくために、来園者アンケートを実施しました。

(2) 来園者アンケート調査概要

- ①実施日 平成 29 年(2017 年) 5 月 3 日(水)～5 月 5 日(金)
- ②場所 動物資料館
- ③時間帯 10:30～15:00
- ④方法等 各日 200 名を対象とし、動物資料館に来館した来園者を対象に呼びかけを行い、回答して頂いた方へ、粗品(メモ帳)を進呈しました。
- ⑤回答者数 626 名
- ⑥期間中の来園者数

例年、ゴールデンウィーク期間中は、動植物園が主催するイベント「春のこどもまつり」や熊本市などが主催する「わくわく江津湖フェスタ」が開催されており、平成 27 年度(2015 年度)の 3 日間合計で約 3 万 3 千人の来園者にお越しいただいていました。平成 29 年度(2017 年度)は熊本地震の影響により、いずれのイベントも中止となりましたが、園の 4 割程度を開放した部分開園となっている状況にも関わらず、3 日間で約 2 万 3 千人の来園者にお越しいただきました。



(図 13) アンケート調査時の来園者数



(写真) 回答者への粗品

(3) 来園者アンケートの様式

「熊本市動植物園」来園者アンケート

本日は、熊本市動植物園にご来園頂き、誠にありがとうございます。

さて、熊本市動植物園では、利用実態調査を兼ねた、来園者アンケートを実施することとしました。

以下の設問について、該当する箇所の番号を○で囲んでください。

Q 1. 年齢についてお聞かせください。

1. 15才以下 2. 16～19才 3. 20代 4. 30代
5. 40代 6. 50代 7. 60代 8. 65才以上

Q 2. お住まいの地域についてお聞かせください。

1. 熊本市内 2. 熊本県内 () 3. 県外 ()

Q 3. 本日は何人でご来園されましたか？

1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人 5. 5人 6. 6人以上

Q 4. 2人以上でご来園の方におたずねします。どなたと一緒に来園されましたか？

1. 家族 2. 友人・知人 3. 団体 () 4. その他 ()

Q 5. 動植物園までの交通手段をお聞かせください。

1. 徒歩 2. 自転車・バイク 3. 自家用車 4. 市電・バス 5. 貸切バス
6. その他 ()

Q 6. 動植物園に来られた「目的」を教えてください。(複数回答可)

1. 動物の観覧 2. 動物ふれあい体験 3. 動物資料館の見学 4. 植物の観覧 5. 遊園地の利用
6. 芝生広場の利用 7. その他 ()

Q 7. 動植物園に来られた「きっかけ」をお聞かせください。

1. 市政だより 2. インターネット(動植物園ホームページ・その他) 3. チラシ・ポスター
4. テレビ・ラジオ 5. 新聞・雑誌 6. 知人から聞いて 7. 地元なので
8. その他 ()

Q 8. 動植物園を1年間に利用される回数をお聞かせください。

1. 1回未満(初めて) 2. 1～2回 3. 3～6回 4. 7～12回 5. 13回以上

Q 9. 本日は、どのくらいの時間滞在(予定)されましたか。

1. 2時間以内 2. 3時間以内 3. 4時間以内 4. 5時間以上

Q 10. 本日、来園された時間帯を教えてください。

1. 9時～10時台 2. 11時～12時台 3. 13時～14時台 4. 15時～16時半

Q 11. 動植物園の現状の満足度等についてお聞かせください。

①料金について

	安い	妥当	高い
入園料(300円)	3	2	1
駐車場使用料(200円)	3	2	1
遊具の料金	3	2	1

②サービスについて

	大変満足	やや満足	普通	やや不満	不満
遊具の種類	5	4	3	2	1
開園時間	5	4	3	2	1
接客のしかた	5	4	3	2	1

③展示物などについて

	大変満足	やや満足	普通	やや不満	不満
動植物の種類・数	5	4	3	2	1
展示の見やすさ	5	4	3	2	1
動物資料館	5	4	3	2	1
動物ふれあい広場	5	4	3	2	1
花の休憩所(大温室)	5	4	3	2	1
動物ガイド・教室など	5	4	3	2	1
植物ガイド・展示会など	5	4	3	2	1

④園内施設について

	大変満足	やや満足	普通	やや不満	不満
売店・レストラン	5	4	3	2	1
トイレ	5	4	3	2	1
授乳室・オムツ交換所	5	4	3	2	1
ベンチ・休憩所	5	4	3	2	1
駐車場	5	4	3	2	1
雨天対策	5	4	3	2	1
暑さ・寒さ対策	5	4	3	2	1
障がい者・高齢者対策	5	4	3	2	1

Q 1 2. 今後も継続してほしい又は参加したい企画若しくは新たに企画してほしいイベントはありますか。

1. 春のこどもまつり 2. ホタル鑑賞会 3. 夏の夜間開園 4. 秋桜（コスモス）まつり
5. 新春こどもまつり 6. 冬の夜間開園 7. 新たに企画してほしい（ ）

Q 1 3. これからの動植物園で、必要だと思われるものはありますか。（複数回答可）

1. ゆとりある広場や木陰の空間づくり 2. 動植物との「ふれあい」「体験」コーナーなど
3. 江津湖などの周囲の水辺空間の活用 4. 子どもたちへの環境教育や野外活動の場としての充実
5. おとなの生涯・体験学習の場としての活用 6. 動物の展示施設の改善
7. 展示する動物の種類や数の充実 8. 動物資料館の展示方法の改善
9. 展示する植物の種類や数の充実 10. 植物・花の休憩所などの展示施設の改善
11. イベントなどの広報の充実 12. 飲食施設（レストランなど）の充実
13. 遊戯施設（遊園地）の充実 14. その他（ ）

Q 1 4. これからの動植物園で、あまり必要と感じられないものはありますか。

1. ある（ ） 2. なし

Q 1 5. 熊本市動植物園を総合的に評価するといかがですか？

1. 満足 2. やや満足 3. 普通 4. やや不満 5. 不満

Q 1 6. 動植物園の「ここは、よかった!」と思うところをご記入ください。

Q 1 7. 動植物園の「ここは、改善してほしい!」と思うところをご記入ください。

Q 1 8. その他ご意見・ご要望がありましたらご記入ください。

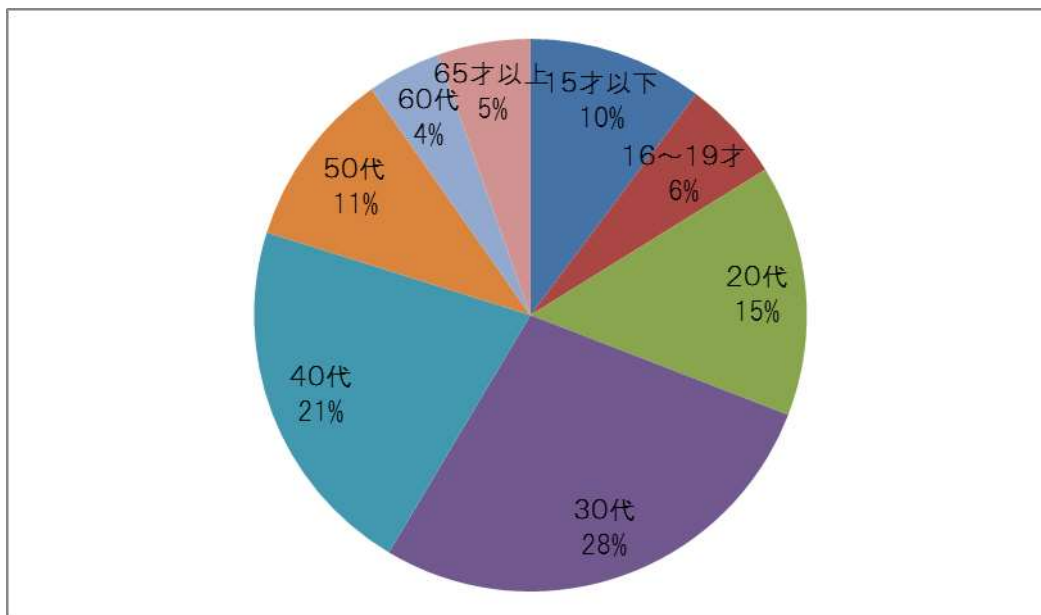
アンケートへのご協力ありがとうございました。

(4) アンケート集計結果

①年齢構成

年齢構成については、30代が最も多く、次いで、40代となりました。60代以上は約9%と一番少ない状況です。

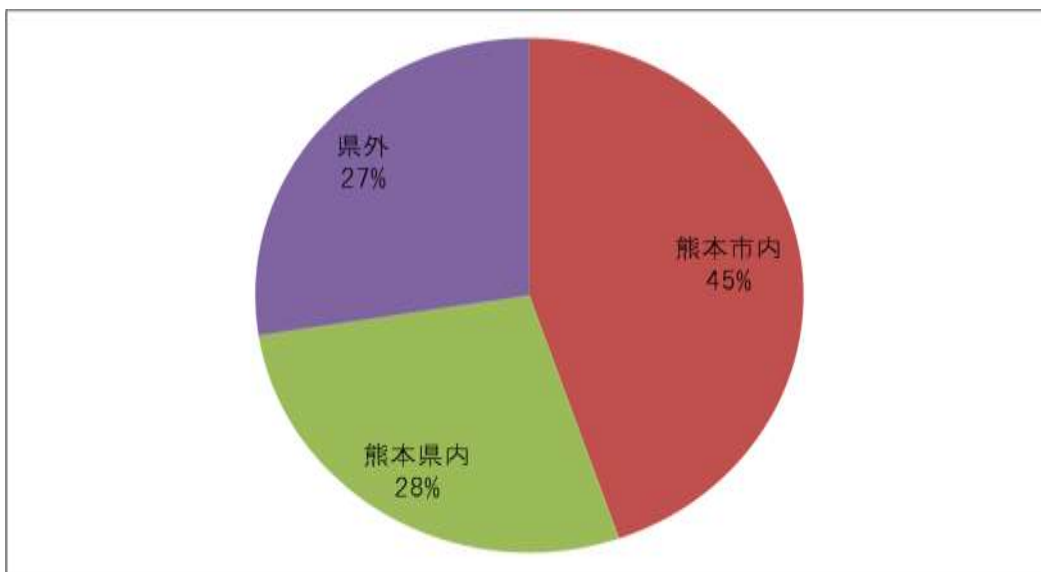
①	15才以下	64	10.2%
②	16～19才	37	5.9%
③	20代	92	14.7%
④	30代	173	27.7%
⑤	40代	133	21.3%
⑥	50代	65	10.4%
⑦	60代	27	4.3%
⑧	65才以上	34	5.4%
無回答		1	-



②居住地域

熊本市内の来園者が、約45%となっており、市外・県外の来園者が、半分を超えました。

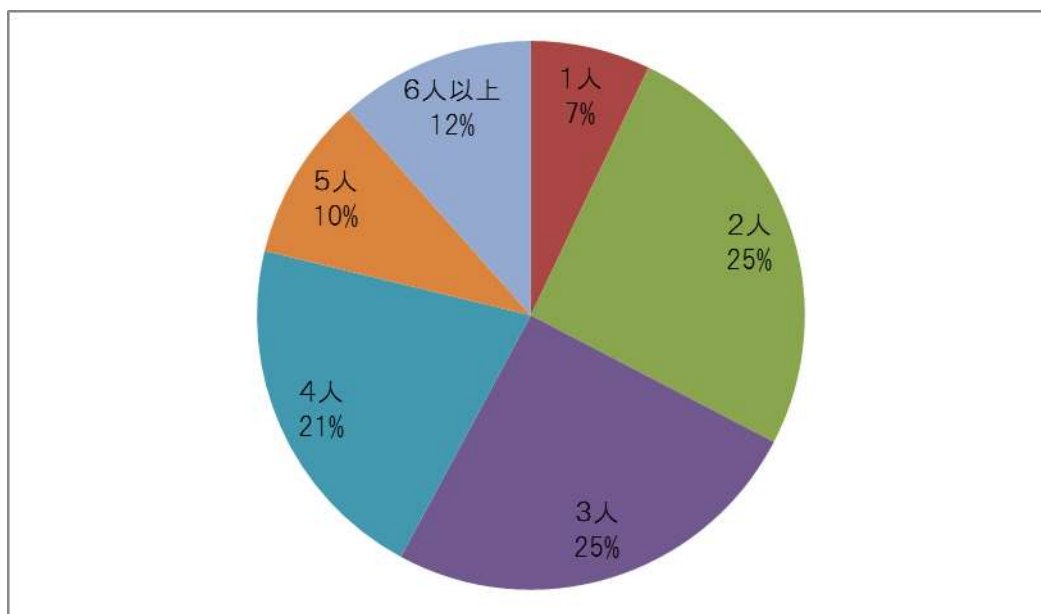
①	熊本市内	278	44.7%
②	熊本県内	173	27.8%
③	県外	171	27.5%
無回答		4	-



③ 1組あたりの人数

最も多かったのは、3人で来園された方が約 25%。
1人で来園された方が、最も少なく、約 7%となりました。

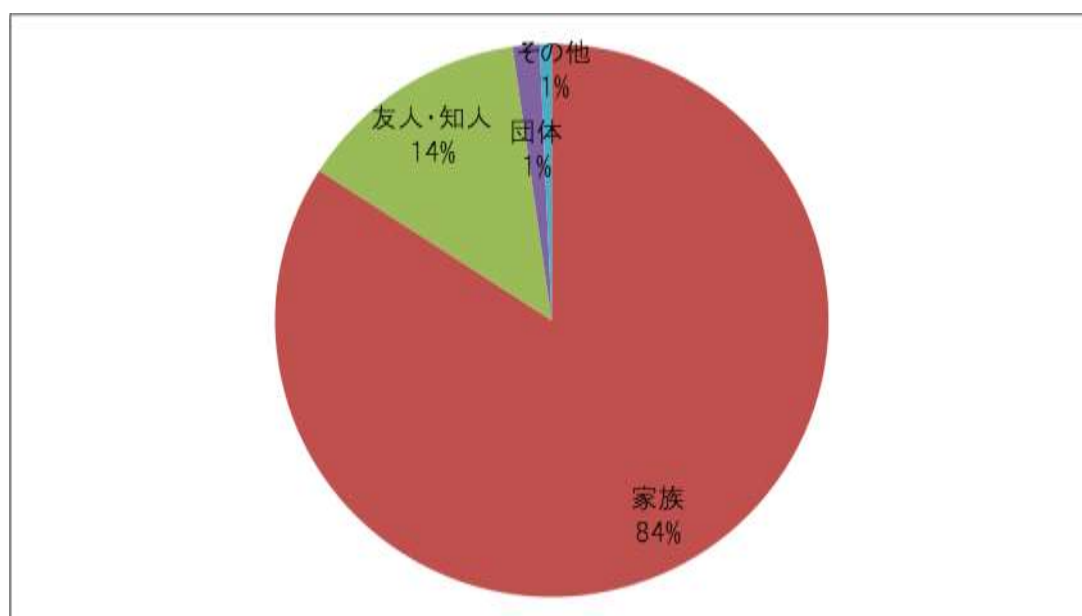
①	1人	44	7.1%
②	2人	159	25.6%
③	3人	157	25.2%
④	4人	130	20.9%
⑤	5人	60	9.6%
⑥	6人以上	72	11.6%
無回答		4	-



④ 複数来園者の関係性

家族での来園が最も多く、約 84%を占めている状況です。
親子連れの来園者が圧倒的に、多い状況です。

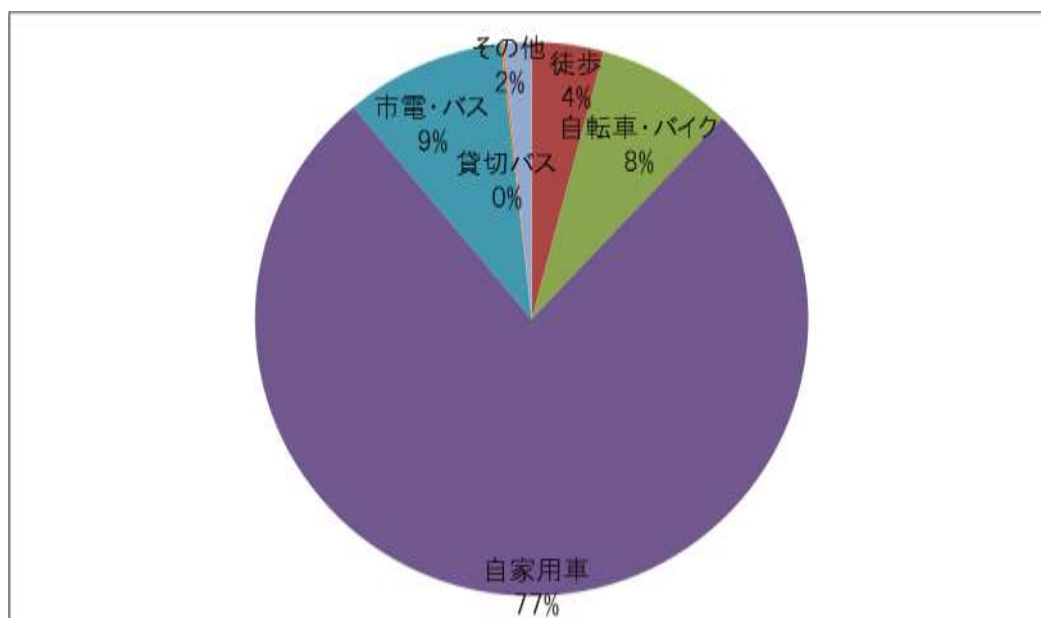
①	家族	482	84.1%
②	友人・知人	78	13.6%
③	団体	9	1.6%
④	その他	4	0.7%
無回答		53	-



⑤交通手段

自家用車での来園が最も多く、約 76%を占めました。次に、公共交通機関での来園が、約 9%、自転車・バイクが約 8%となりました。

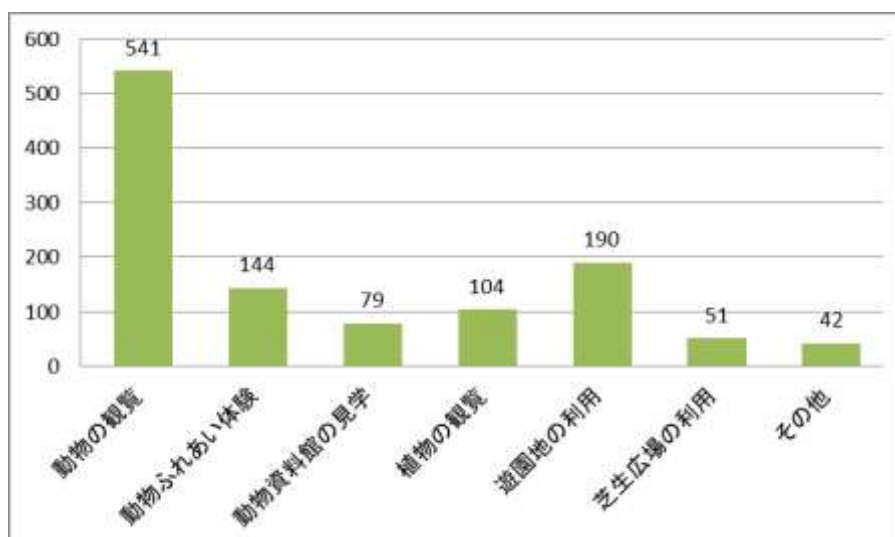
①	徒歩	26	4.2%
②	自転車・バイク	49	7.9%
③	自家用車	475	76.4%
④	市電・バス	58	9.3%
⑤	貸切バス	1	0.2%
⑥	その他	10	1.6%
無回答		7	-



⑥動植物園に来園された目的

全体の約 87%と多くの来園者が動物の観覧を目的としています。次いで、遊園地の利用が、約 31%となりました。

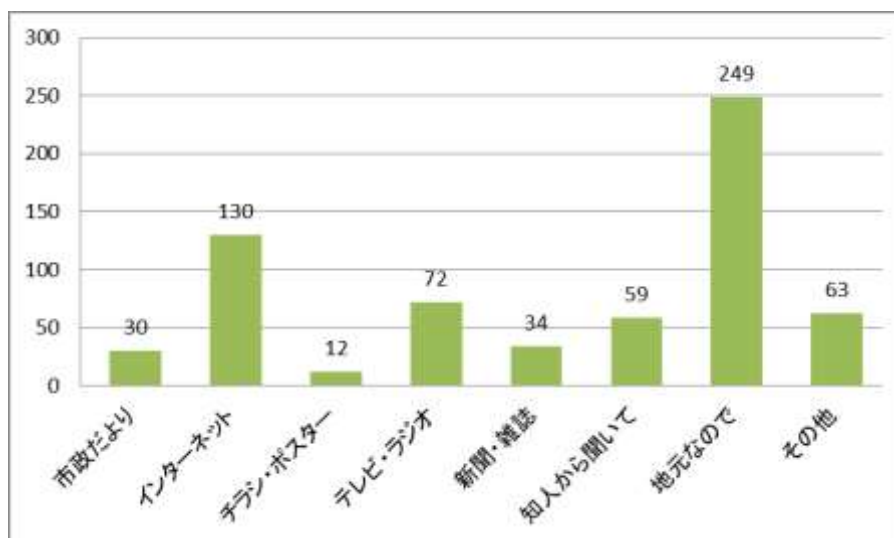
①	動物の観覧	541	87.0%
②	動物ふれあい体験	144	23.2%
③	動物資料館の見学	79	12.7%
④	植物の観覧	104	16.7%
⑤	遊園地の利用	190	30.5%
⑥	芝生広場の利用	51	8.2%
⑦	その他	42	6.8%
無回答		4	-



⑦動植物園に来園されたきっかけ

地元のなのでと答えた人が、約 38%に上る一方で、インターネットと答えた人も約 20%に達しています。次いで、マスメディアによるものとなりました。

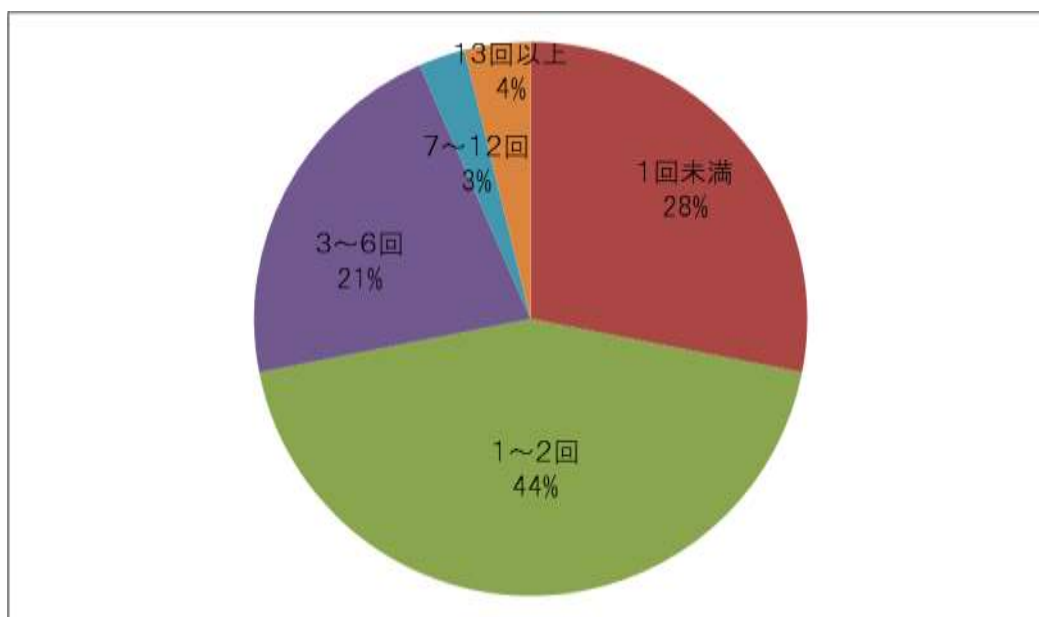
①	市政だより	30	4.6%
②	インターネット	130	20.0%
③	チラシ・ポスター	12	1.8%
④	テレビ・ラジオ	72	11.1%
⑤	新聞・雑誌	34	5.2%
⑥	知人から聞いて	59	9.1%
⑦	地元なので	249	38.4%
⑧	その他	63	9.7%
無回答		15	-



⑧動植物園の年間利用回数

年間に 2 回以下の方が、約 72%と大半を占めている状況です。3 回以上のリピーターが約 28%となりました。

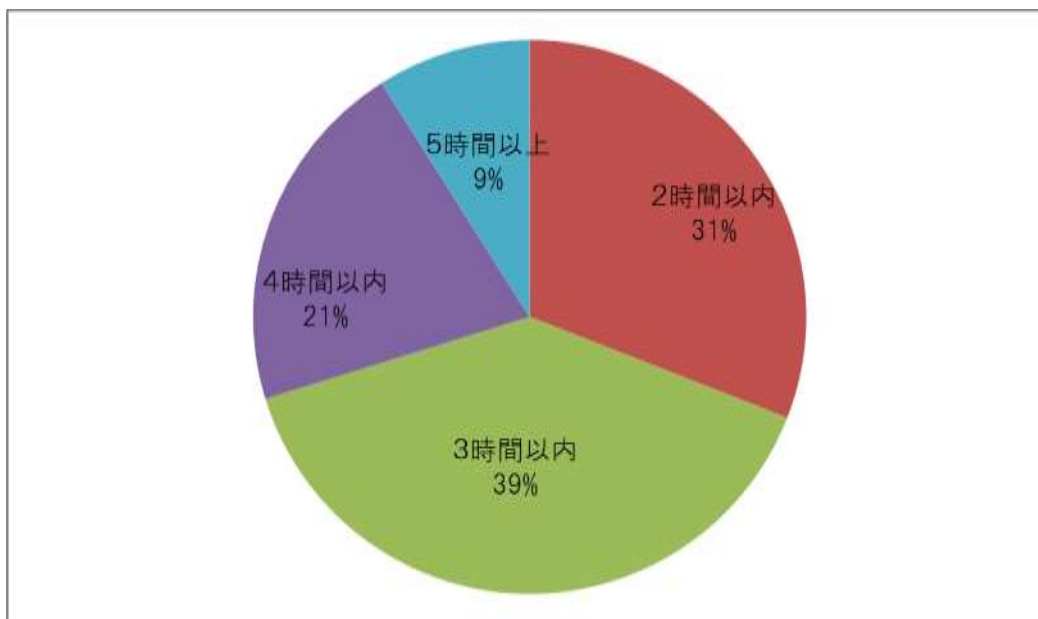
①	1 回未満	175	28.1%
②	1 ～ 2 回	273	43.8%
③	3 ～ 6 回	134	21.5%
④	7 ～ 12 回	17	2.7%
⑤	13 回以上	24	3.9%
無回答		3	-



⑨滞在時間（予定時間）

アンケート時は、部分開園期間でもあるため、3 時間以内が全体の約 70%を占めている状況です。

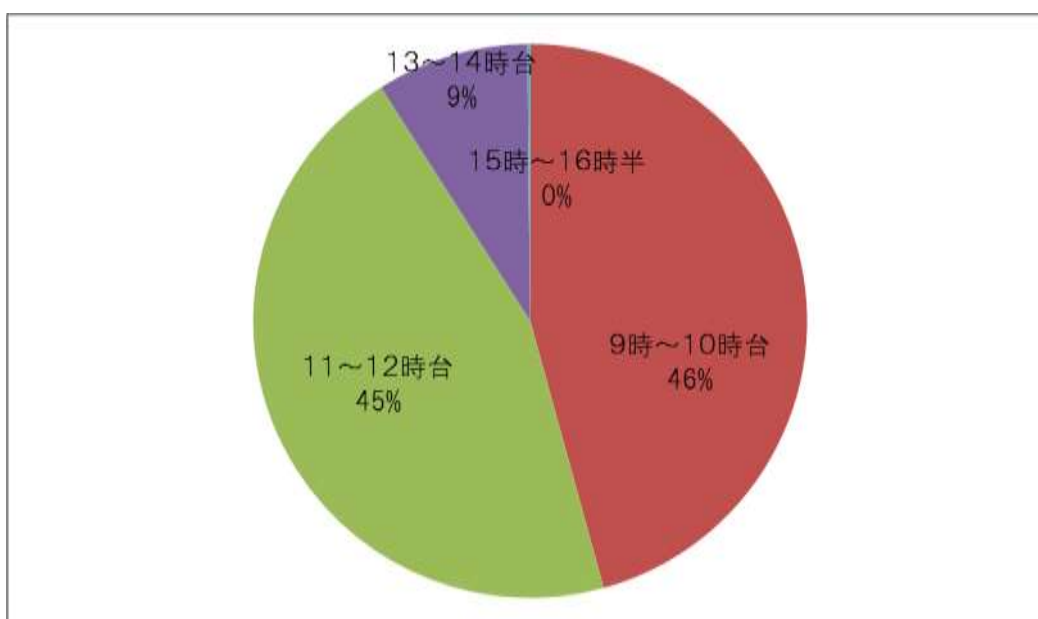
①	2 時間以内	189	30.9%
②	3 時間以内	240	39.3%
③	4 時間以内	127	20.8%
④	5 時間以上	55	9.0%
無回答		15	-



⑩入園の時間帯

来園者アンケートの受付が 10 時半からであったことも影響していますが、午前中に入園する来園者が、全体の約 91%を占めている状況です。

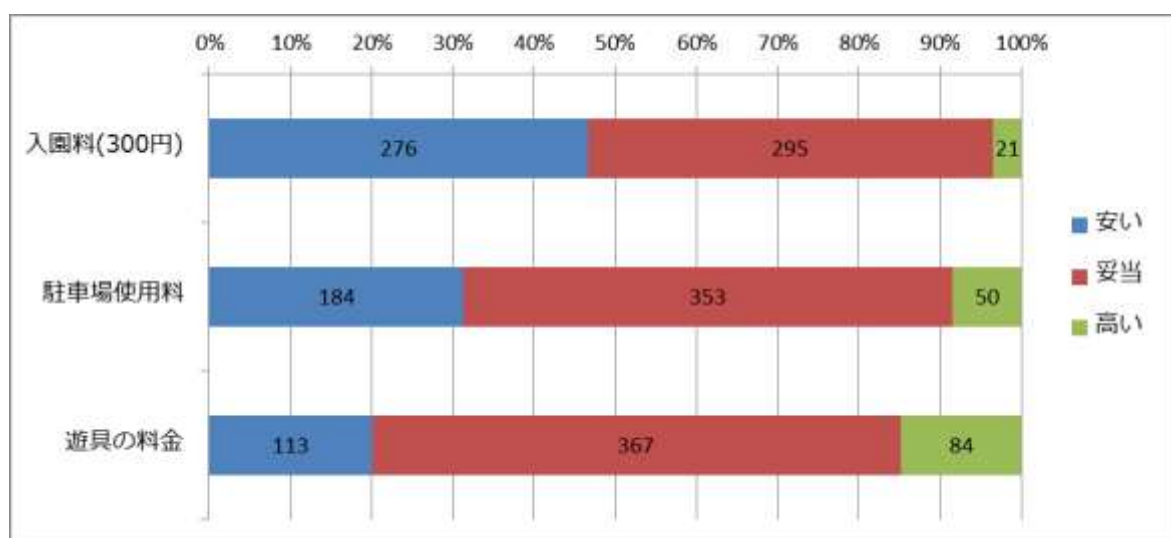
①	9 時～1 0 時台	282	45.6%
②	1 1～1 2 時台	280	45.2%
③	1 3～1 4 時台	55	8.9%
④	1 5 時～1 6 時半	1	0.2%
無回答		8	-



⑪－１ 動植物園の各種料金等に関する満足度

入園料及び駐車場使用料については、高いと答えた人が、10%に満たなかった状況ですが、遊具の料金については、約14%が高いと答えています。遊具の料金については、「乗車時間が短い」や「回数券やパス券の導入」などの意見もありました。多くの人が妥当と答える中、入園料については、安いと答える人が、約47%となりました。

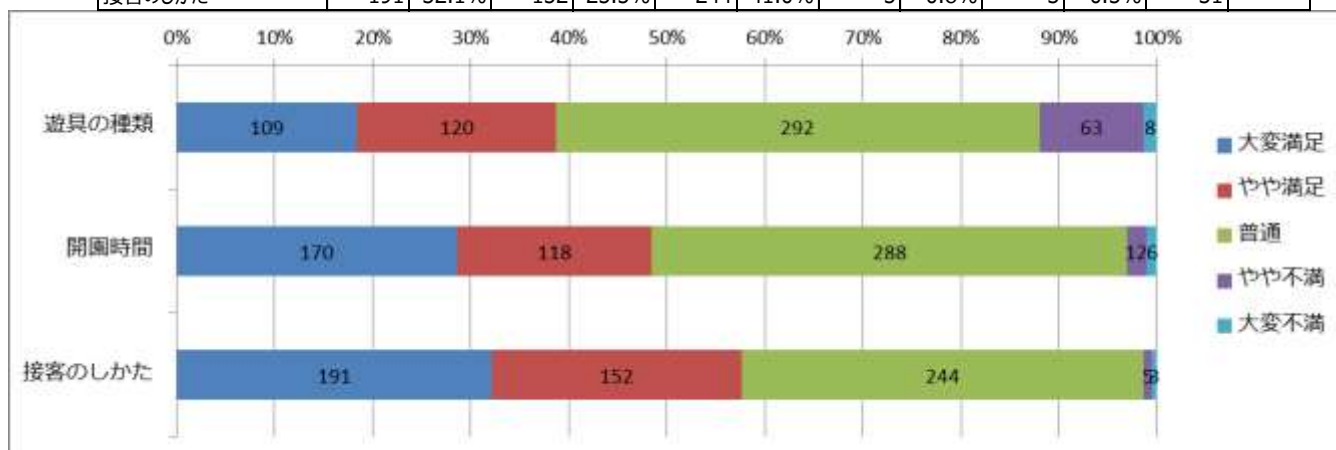
	③安い		②妥当		①高い		無回答	
入園料(300円)	276	46.6%	295	49.8%	21	3.5%	34	-
駐車場使用料	184	31.1%	353	59.6%	50	8.4%	39	-
遊具の料金	113	19.1%	367	62.0%	84	14.2%	62	-



⑪－２ 動植物園のサービスに関する満足度

遊具の種類については、やや不満を含め不満と答えた人が、12%となりました。一方で開園時間や接客のしかたについては、不満と答えた方は、5%に満たない結果となりました。接客のしかたについては、やや満足を含め、満足と答えた方が、50%を超える状況となりました。

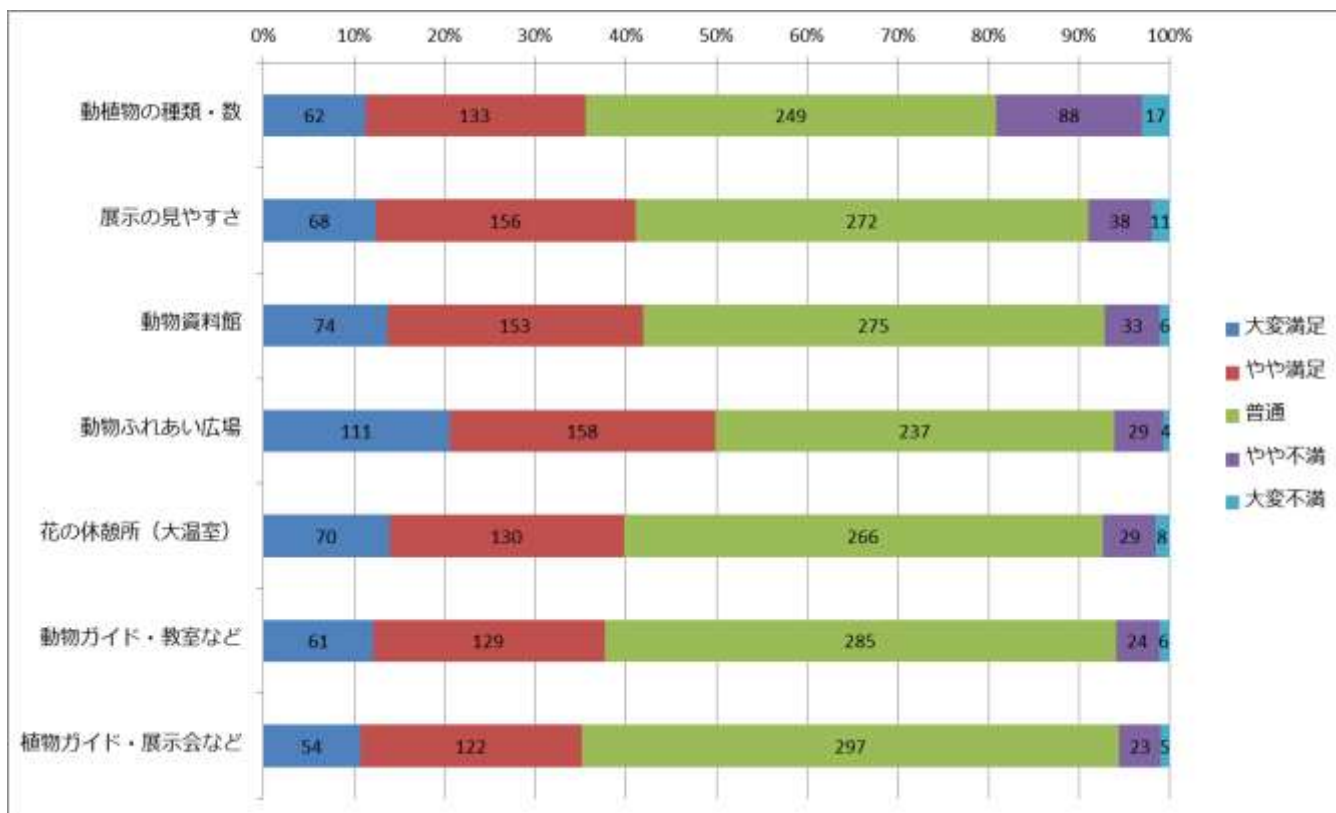
	⑤大変満足		④やや満足		③普通		②やや不満		①大変不満		無回答	
遊具の種類	109	18.4%	120	20.3%	292	49.3%	63	10.6%	8	1.4%	34	-
開園時間	170	28.6%	118	19.9%	288	48.5%	12	2.0%	6	1.0%	32	-
接客のしかた	191	32.1%	152	25.5%	244	41.0%	5	0.8%	3	0.5%	31	-



⑪－３ 動植物園の展示物に関する満足度

動植物の種類・数については、部分開園期間中で展示動物が大幅に減っている状況も1つの理由として挙げられますが、やや不満を含め不満と回答された方が、約19%となりました。その他については、不満と回答された方は、10%未満となりました。また、動物ふれあい広場は、やや満足を含めた満足と回答された方が、約50%に達しました。

	⑤大変満足		④やや満足		③普通		②やや不満		①大変不満		無回答	
動植物の種類・数	62	11.3%	133	24.2%	249	45.4%	88	16.0%	17	3.1%	77	-
展示の見やすさ	68	12.5%	156	28.6%	272	49.9%	38	7.0%	11	2.0%	81	-
動物資料館	74	13.7%	153	28.3%	275	50.8%	33	6.1%	6	1.1%	85	-
動物ふれあい広場	111	20.6%	158	29.3%	237	44.0%	29	5.4%	4	0.7%	87	-
花の休憩所（大温室）	70	13.9%	130	25.8%	266	52.9%	29	5.8%	8	1.6%	123	-
動物ガイド・教室など	61	12.1%	129	25.5%	285	56.4%	24	4.8%	6	1.2%	121	-
植物ガイド・展示会など	54	10.8%	122	24.4%	297	59.3%	23	4.6%	5	1.0%	125	-



⑪－４ 動植物園の施設に関する満足度

トイレ、売店・レストラン、雨天対策、暑さ・寒さ対策については、やや不満を含め、不満と回答された方が、15%を超える状況となりました。売店・レストランについては、地震の影響により、売店は規模を縮小、レストランは休業していることも1つの理由として考えられます。一方で、駐車場については、2012年(H24)に拡張工事を行ったことから、やや満足を含め、満足と回答された方が、40%を超える状況となりました。

	⑤大変満足		④やや満足		③普通		②やや不満		①大変不満		無回答	
売店・レストラン	43	8.2%	94	17.9%	295	56.3%	78	14.9%	14	2.7%	102	-
トイレ	36	6.7%	103	19.1%	301	55.9%	86	16.0%	12	2.2%	88	-
授乳室・オムツ交換所	59	12.1%	96	19.7%	311	63.7%	19	3.9%	3	0.6%	138	-
ベンチ・休憩所	64	12.1%	144	27.1%	262	49.3%	57	10.7%	4	0.8%	95	-
駐車場	67	12.8%	146	27.9%	274	52.3%	34	6.5%	3	0.6%	102	-
雨天対策	33	6.6%	68	13.7%	320	64.4%	69	13.9%	7	1.4%	129	-
暑さ・寒さ対策	33	6.4%	76	14.7%	317	61.2%	83	16.0%	9	1.7%	108	-
障がい者・高齢者対策	42	8.5%	91	18.3%	314	63.3%	43	8.7%	6	1.2%	130	-

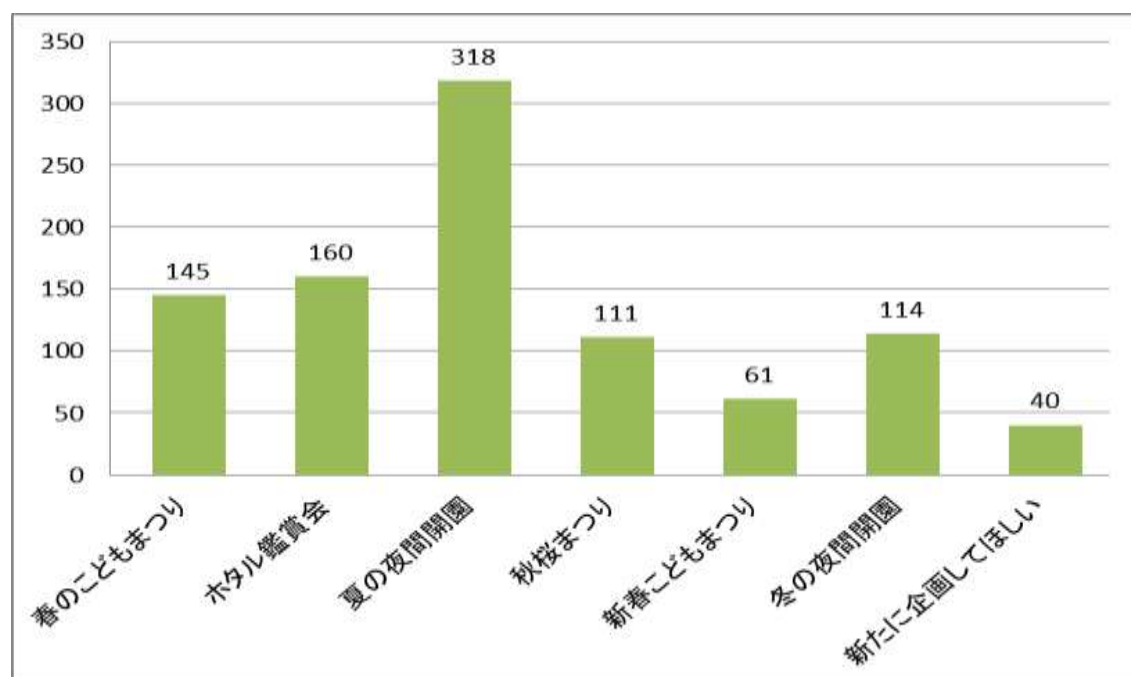


⑫動植物園のイベント

今後継続してほしいイベントとして一番要望が多かったものは、夏の夜間開園でした。次いで、春のこどもまつり、ホタル鑑賞会という結果になっています。一方で、新春こどもまつりが一番少ない結果となりました。

新たに企画してほしいイベントとして、「アニメとコラボしたイベント」、「ハロウィンや動物のコスプレ等来園者参加型イベント」、「スタンプラリーの開催」、「さくらまつりの開催」などをあげていただきました。

①	春のこどもまつり	145	28.7%
②	ホタル鑑賞会	160	31.7%
③	夏の夜間開園	318	63.0%
④	秋桜まつり	111	22.0%
⑤	新春こどもまつり	61	12.1%
⑥	冬の夜間開園	114	22.6%
⑦	新たに企画してほしい	40	7.9%
無回答		121	-

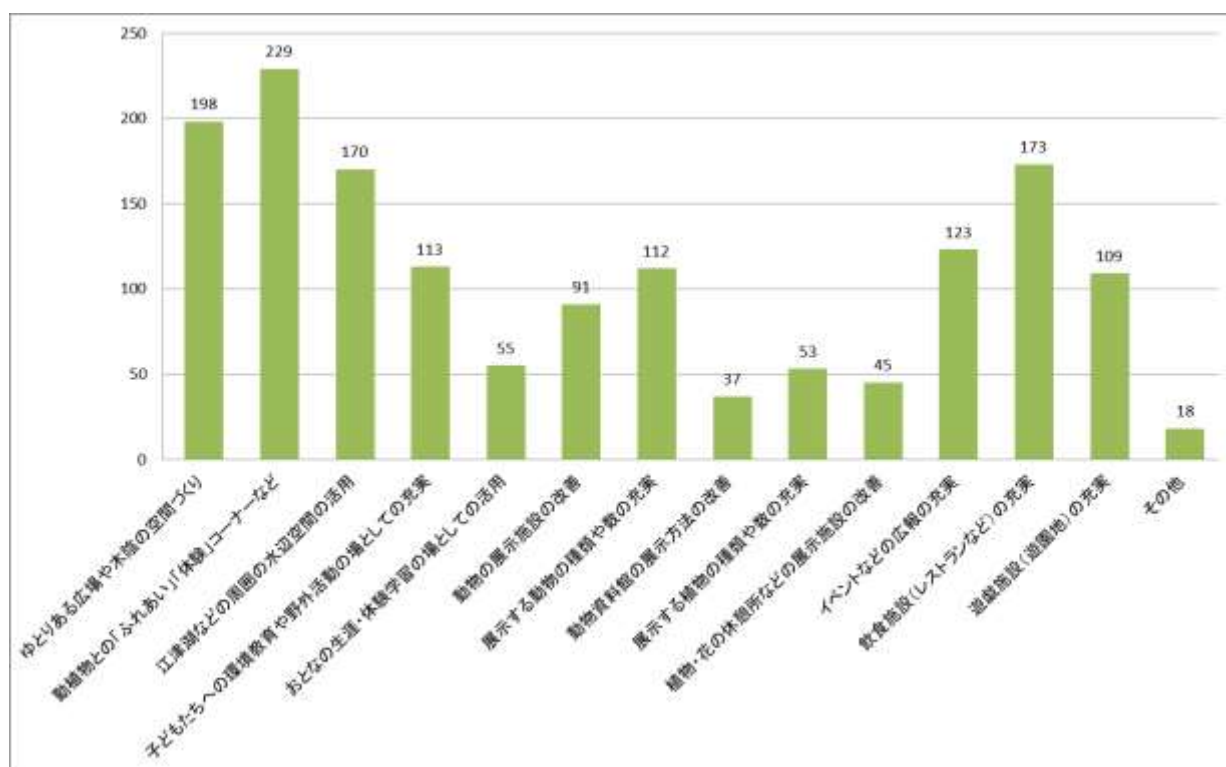


⑬これからの動植物園に必要と思われるもの

最も多かった回答は、動植物との「ふれあい」「体験」コーナーとなりました。

次いで、ゆとりある広場や木陰の空間づくり、飲食施設（レストランなど）が必要との結果が出ました。その他のご意見については、「洋式トイレの充実」、「おとな向けの動植物園」、「室内で遊べる場」や「アスレチック等の無料で遊べる遊具」などをあげていただきました。

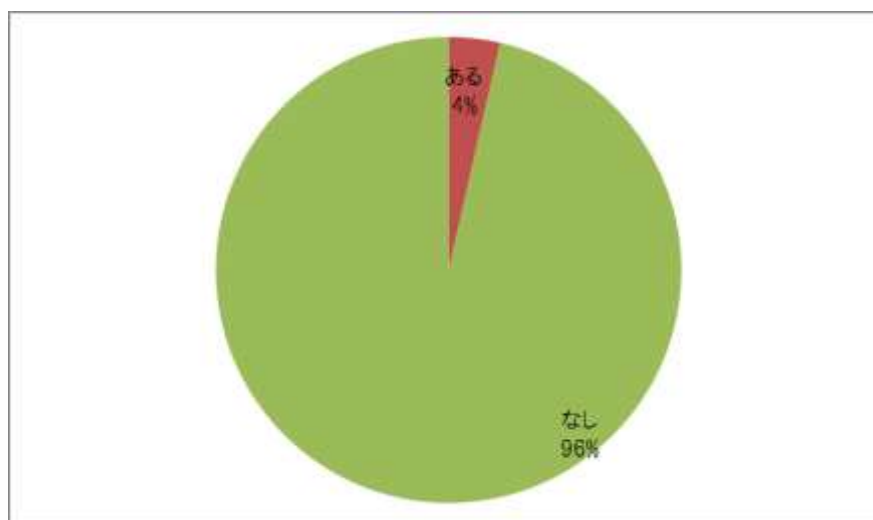
①	ゆとりある広場や木陰の空間づくり	198	37.5%	⑧	動物資料館の展示方法の改善	37	7.0%
②	動植物との「ふれあい」「体験」コーナーなど	229	43.4%	⑨	展示する植物の種類や数の充実	53	10.0%
③	江津湖などの周囲の水辺空間の活用	170	32.2%	⑩	植物・花の休憩所などの展示施設の改善	45	8.5%
④	子どもたちへの環境教育や野外活動の場としての充実	113	21.4%	⑪	イベントなどの広報の充実	123	23.3%
⑤	おとなの生涯・体験学習の場としての活用	55	10.4%	⑫	飲食施設（レストランなど）の充実	173	32.8%
⑥	動物の展示施設の改善	91	17.2%	⑬	遊戯施設（遊園地）の充実	109	20.6%
⑦	展示する動物の種類や数の充実	112	21.2%	⑭	その他	18	3.4%
無回答						98	-



⑭これからの動植物園であまり必要と感じられないもの

必要と感じられないものは、「ない」と回答された方が、約 96%となりました。一方「ある」と回答された方は、約 4%となり、そのご意見では、「ゲームセンター」、「スタッフの人数」、「遊具を撤去して動物展示をにらんだ根本的な見直し」、「園内の池」がありました。

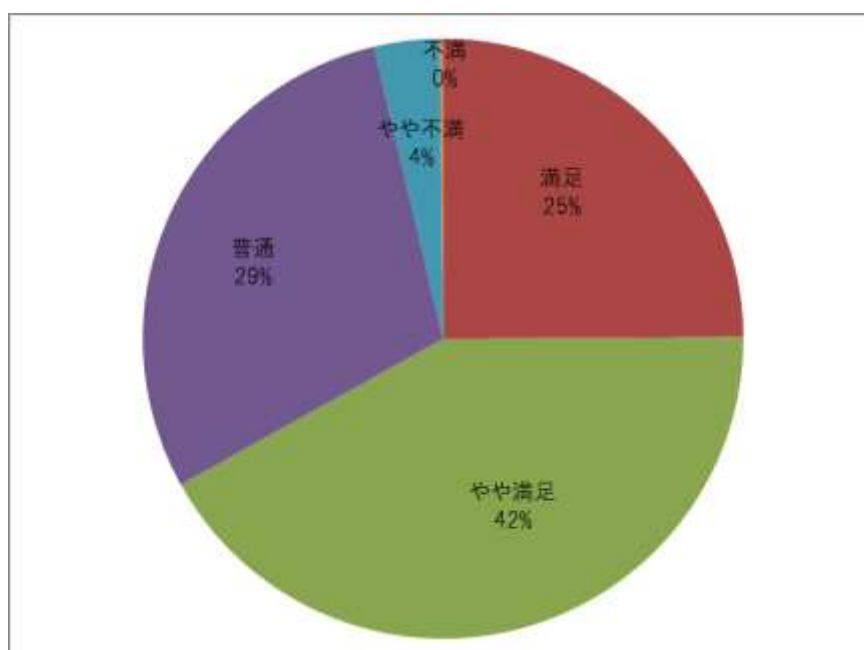
①	ある	17	3.6%
②	なし	460	96.4%
無回答		149	-



⑮動植物園の総合的な評価

「満足」、「やや満足」と答えて頂いた方が、約 67%となりました。また、「不満」「やや不満」と答えていただいた方が、約 4%となりました。

①	満足	134	24.9%
②	やや満足	226	42.0%
③	普通	158	29.4%
④	やや不満	19	3.5%
⑤	不満	1	0.2%
無回答		88	-



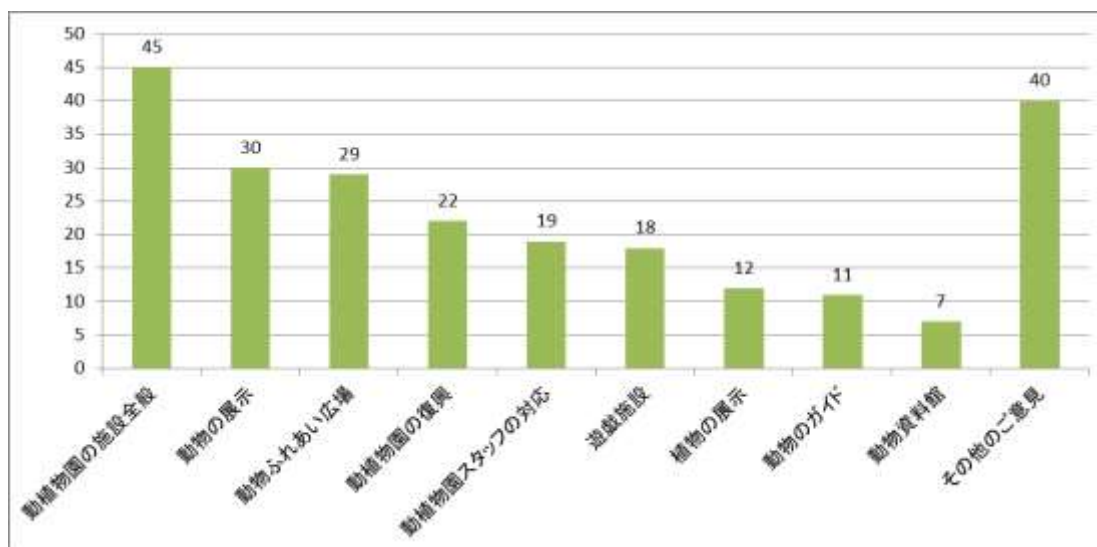
⑩動植物園の「ここは、よかった！」もの

動植物園の「ここは、よかった！」という点については、記述式で来園者の方々にご意見を募り、233 件のご意見をいただきました。

最も多かったものは、「動植物園施設全般」（45 件）となり、次に「動物の展示」（30 件）、「動物ふれあい広場」（29 件）と続きます。

動植物園の施設全般	45	19.3%
動物の展示	30	12.9%
動物ふれあい広場	29	12.4%
動植物園の復興	22	9.4%
動植物園スタッフの対応	19	8.2%
遊戯施設	18	7.7%
植物の展示	12	5.2%
動物のガイド	11	4.7%
動物資料館	7	3.0%
その他のご意見	40	17.2%

これらのご意見については、今後も現状以上に維持できるように、努めなければならないと考えています。



★ご意見の一部をご紹介します

●動植物園の施設全般について（45 件）

- ・キレイな授乳室があった。
- ・緑が多くて良いと思う。
- ・ベビーカーがよかった。
- ・九州で1番起伏が少ない。他県に自慢できる。
- ・園内が広く、乗り物、動物が充実している。
- ・道が広く、ベビーカーや車椅子が通りやすかった。
- ・駐車場の広さ など

●動物の展示について（30 件）

- ・キリン・ゾウと距離が近いこと
- ・特徴的なニワトリに加えセキショクヤケイを見ることができた。
- ・プレーリードッグの遊具は見やすいし、子供たちも喜んだ。
- ・写真と分かりやすい説明が展示されていて良かった。
- ・ゾウの健康診断はとても良かった

●動物ふれあい広場について（29 件）

- ・ モルモットのタッチングは子供が喜んでいて良かった。
- ・ モルモットや色んな種類のヤギに触れて楽しかったです。
- ・ たくさんの動物に触れることができること

●動植物園の復興について（22 件）

- ・ 地震で見られる動物や遊具が減ってしまっているけど、それでも頑張って開園されていて良かったです。またきます。
- ・ 部分だけでも開園していただけたことは、大変喜ばしいことでした。子供連れであまりお金を掛けず、楽しめる数少ない場所なので。

●動植物園スタッフの対応について（19 件）

- ・ 職員さんの対応が親切で気持ち良かった。
- ・ 飼育員の方に質問すると丁寧に説明してくれたところ。
- ・ 動物もスタッフの方もみなさん頑張ってらっしゃると思いました。

●遊戯施設について（18 件）

- ・ モノレールで上から動物を見られたこと。
- ・ 子供も飽きずに遊べる遊具があるのはうれしいと思う。1 日中でも過ごせる。

●植物の展示について（12 件）

- ・ お花はきれいに植えられており、手入れが入って気持ちよかった。
- ・ 植物園側が穏やかにすごせるいいところでした。
- ・ 植物の見頃がブログで紹介されている。

●動物のガイドについて（11 件）

- ・ 可能な範囲での動物ガイドツアー実施がよい。
- ・ キリンの自己紹介分かりやすかったです。
- ・ ゾウの部屋での説明は、大人が楽しめた(昔の話ですが)。昔開園直後に来たときに、職員の方がキリンを近くに呼んでくれて嬉しかった。

●動物資料館について（7 件）

- ・ 今はまだ入ることができないエリアの動物達の様子を映像で見ることができ、うれしかったです。もっと多くの人に見てほしい。もったいない。
- ・ 特に淡水生物の展示がよかった。
- ・ 動物の赤ちゃんのお話がおもしろかった。

●その他のご意見（40 件）

- ・ 江津湖で自転車に乗れるところ。
- ・ こいのぼり。季節感がかんじられるところ。
- ・ 市内からも近く、料金も安いので遊びに来やすい。
- ・ 動物の数、遊具の数・質ともにバランスよく、広場もあり、色々な面で楽しめるところが良かったです。

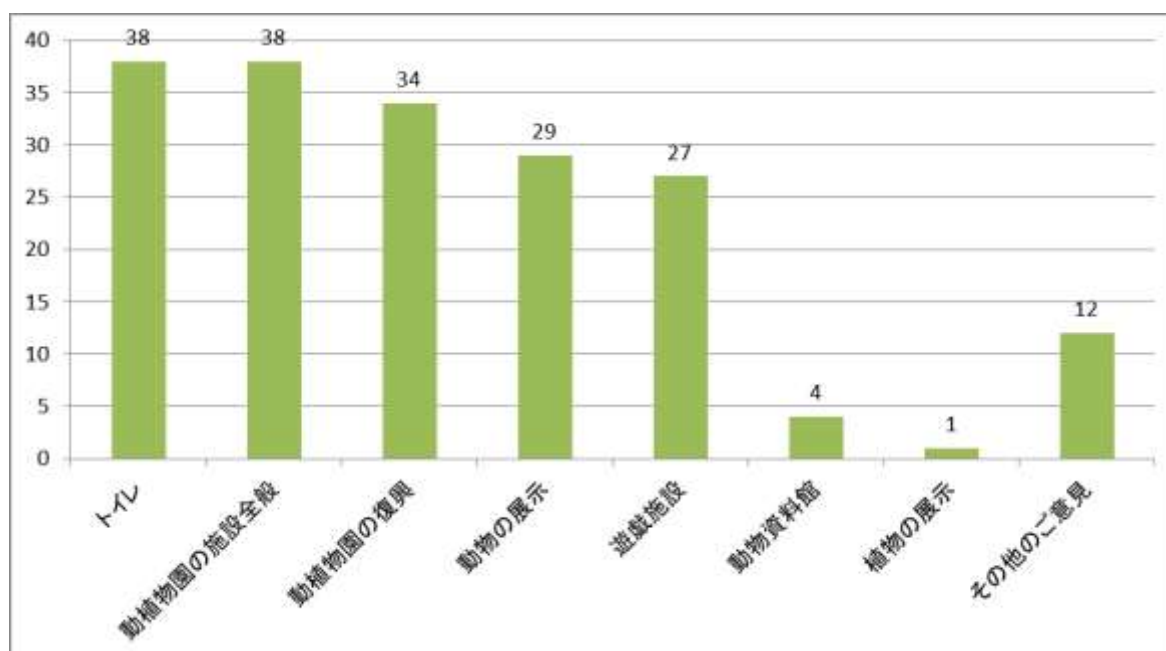
⑰動植物園の「ここは、改善してほしい！」もの

動植物園の「ここは、改善してほしい！」という点についても、記述式で、来園者の方々にご意見を募り、183 件のご意見を頂きました。

トイレ	38	20.8%
動植物園の施設全般	38	20.8%
動植物園の復興	34	18.6%
動物の展示	29	15.8%
遊戯施設	27	14.8%
動物資料館	4	2.2%
植物の展示	1	0.5%
その他のご意見	12	6.6%

最も多かったものは、「トイレ」と「動植物園施設全般」（38 件）となり、次に「動植物園の復興」（34 件）、「動物の展示」（29 件）と続きます。

これらのご意見については、今後の事業の運営の参考にさせていただくとともに、本計画にできるだけ反映し、改善を図って行きたいと考えています。



★ご意見の一部をご紹介します

●トイレについて（38 件）

- ・トイレは和式が多く、子供が使用しにくい。
- ・トイレをもっと清潔に、充実してほしいです。
- ・洋式トイレが少し増えるといいなと思っています。
- ・トイレの数がもう少し増えたら助かります。

●動植物園の施設全般について（38 件）

- ・排水の溝の段差が多いので、ベビーカーの移動が少ししづらい。
- ・園路をしっかりと整備してほしい
- ・熊本の夏は暑いので、暑さ対策が必要。
- ・タバコのエリアはなくしてほしい。完全禁煙を。
- ・動物園エリアと植物園エリアが別れているところ。子ども達のその時見たいものがど

ちらでも対応できるようにできないか。

- ・全体的に老朽化が進んでいる印象があります。熊本には他県に比べて本格的な水族館もないので動植物園には力を入れて欲しい！
- ・休憩する場所（イス）がもう少しあるとよいかと思います。
- ・レストランが暗く、食事をする気になれない。
- ・まわる順番の表示があると良い。
- ・雨天の時、雨をしのげる場所がもう少しあると良い
- ・屋内がもっと欲しい。
- ・手洗い場等を増やしてほしい（ふれあいの前後）
- ・ゾウの横の喫煙所。周辺を歩いていると煙が流れてくるので良い気持ちはしない。

●動植物園の復興について（34 件）

- ・花や動物の種類等増やすか、県外にあずかってもらっている動物が熊本に帰ってきてまたその動物たちが見られると良いなあ。
- ・早く全部の動物を見られるようにしてほしい。
- ・完全復活待っています。
- ・地震で大変だったと思います。ご苦労様でしたが、まだまだ色々改善していった欲しいです。
- ・早く全面開園してほしい

●動物の展示について（29 件）

- ・ガイドの数や種類をふやしてほしい。
- ・動物の行動展示が少ない。
- ・獣舎が見にくい（クマ舎、猛獣舎、草食獣舎、キリン舎）
- ・バックヤードやエサやり、エサ作りなど体験型の教室・イベントの充実。
- ・動物をただ展示するだけでなく、触れる動物を増やす、近くまで寄れる展示方法、生態の動きを活用した展示など、動物に配慮しつつ楽しませるような見せ方を期待しています。

●遊戯施設について（27 件）

- ・遊具はもう少し安い料金がよい。
- ・遊具がもう少したくさんあるといい。
- ・小さい子供が遊べる遊具を増やしてほしい。
- ・モノレールで動物を上から見る事が出来ましたが、キリンとゾウとカピバラ・クジャク以外は名前がわからなかったなので、モノレールからでもわかれば良いと思います。
- ・ゲームセンターの充実
- ・もっとスリルのある遊具がほしい（大人用）
- ・遊具などのさび・はげ
- ・のりもの券が少々めんどろ、パス券になるといいなあ

●動物資料館について（4 件）

- ・動物資料館の入口にスロープがあると良い。せっかくベビーカー貸出しているのだから。
- ・特定外来生物被害防止法の資料を動物資料館に展示して欲しい。
- ・カメのエリアの水場をもう少し大きくして欲しい

●植物の展示について（1 件）

- ・温室をもっと行きたくなるような空間にしてほしい。

●その他のご意見（12 件）

- ・夜間開園の日を増やしてほしい。
- ・公共交通で行きにくい。
- ・パンフレットがほしい。
- ・少しでも入園料を払い、修復費に充ててもいいのではないかと思います
- ・動物（ヤギ・羊）のフンが道にまで落ちていたので、清掃に力を入れて欲しい。

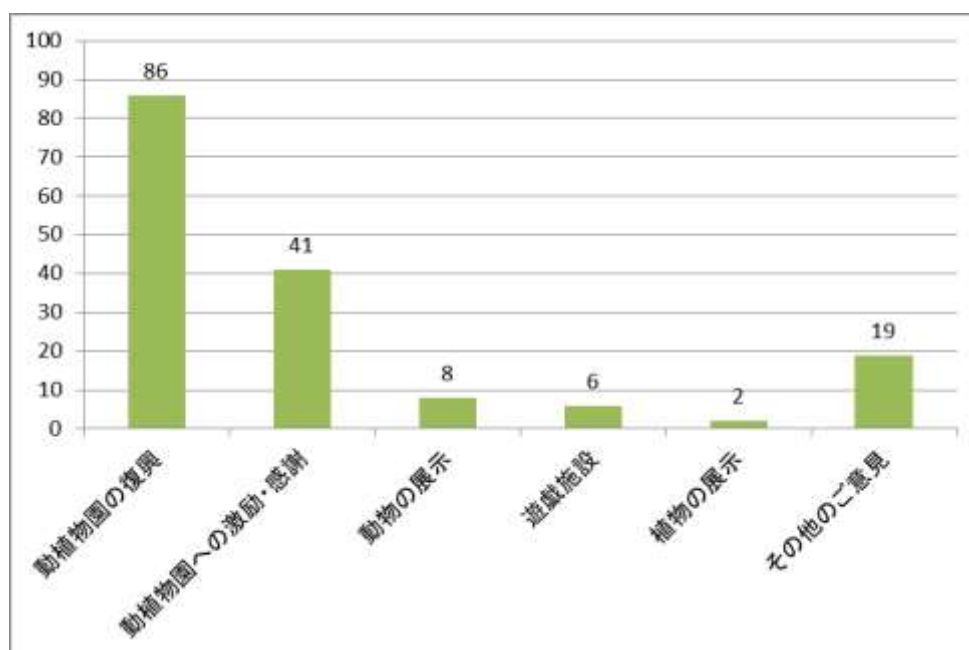
⑱その他ご意見・ご要望

その他ご意見・ご要望については、
162 件のご意見を頂きました。

中でも、動植物園の復興への期待と
動植物園への激励・感謝に関するもの
が約 7 割弱ありました。

動植物園の復興	86	47.0%
動植物園への激励・感謝	41	22.4%
動物の展示	8	4.4%
遊戯施設	6	3.3%
植物の展示	2	1.1%
その他のご意見	19	10.4%

今後も動植物園の復興を最優先に取り組み、来園者からの激励や感謝に応えていくことが、大切だと考えています。



★ご意見の一部を紹介させていただきます

●動植物園の復興について（86 件）

- ・熊本地震の被災で大変だったと思いますが、1年でここまで展示や遊具が使えるようになったのは、すごいと思いました。全面開園を楽しみにしています。
- ・早くマルルやももちゃん達が見たいです。
- ・熊本地震からの復旧・復興大変ですけど市民のために頑張ってください。
- ・安全対策を施して、リニューアルをしてほしい。
- ・もう少しピッチを上げて修理を完了してほしいです。
- ・今日は地震の影響を知らずに来てしまい動物をあまり見られず残念でした。でもアフリカゾウが見ることができてよかったです。
- ・20年ぶりに来園しました。昨年の地震以来待ち望んでいたのが嬉しかったです。
- ・熊本動植物園、大好きです。ホッと安心する場です。これからも応援しています。

●動植物園への激励・感謝について（41 件）

- ・ゾウ・キリンが頑張って接客していました。お疲れ様です。職員の皆さん有難うございます。
- ・成長した子供たちと来ました。ありがとうございます。
- ・熊本動植物園とても大好きです。
- ・動物園に来るとホッとします。動物たちの映像も面白かったです。がんばって下さい。
- ・成長した子供たちと来ました。ありがとうございます。
- ・子供たちのため開園していただき、ありがとうございました。

●動物の展示について（8 件）

- ・身近な動物（動物園外）のガイドツアーがあったらいいかも。
- ・獣舎が古くて暗い。
- ・動物を近くで見られたらもっと楽しくなると思います。
- ・エリア拡大（スペースなければ植物園を縮小）し展示種類を増やしてほしい。江津湖に隣接しており、他動物園と比較して特徴的なアピールポイントなのでこれを活かして
- ・他にない動物園にしてほしい。地元ですので期待しています。
- ・ウサギのふれあいがしてみたいです。
- ・夜もやってほしい。夜行性の動物が元気な姿を見たい。

●遊戯施設について（6 件）

- ・遊具の料金ですが、200円は少し高い気がします。200円でも、もう少し長く乗れるといいです。又は回数券などがあるといいかなと思います。
- ・乗り物に乗っている時間を長くしてほしい。
- ・遊園地の絶叫系を1つ
- ・暑かったので、霧のミストが遊具を待っている所にあると嬉しかったです。

●植物の展示について（2 件）

- ・植物（特に多肉植物）が好きなので、優秀な作品の展示会及び、同時に販売会をして欲しい。福岡市植物園でも行われています。
- ・お花がきれい

●その他のご意見（19 件）

- ・サポーターが 5,000 円は高い。
- ・たこ焼きがおいしくなかった。各所にある水飲み場の復旧を望む。
- ・今日は 30 年ぶりくらいで足を運んでみようと思い来園しました。今後は少なくとも 1～2 ヶ月に 1 回は遊びにこようと考えています。
- ・多くの方がレジャーで来園すると思うが、プラスαで学び・感動があるような「しかけ」を作っていく必要があると思います。
- ・小さい子供、休日の時は多いですけど、高齢者も多くなってきました。平日でも楽しく一日過ごせるようなものを考えて下さい。
- ・高齢者のためのベンチを増設してほしい（園内が広いので）。
- ・携帯の充電スペースがほしいです。
- ・ステージ広場を有料で発表会などに使用できるようにしたらどうでしょう。